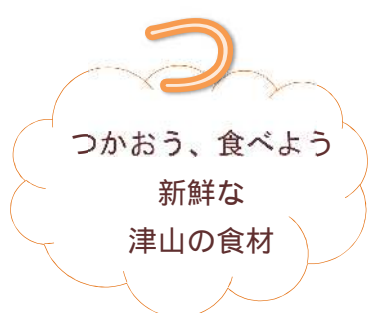


# 「第2次津山市食育推進計画」 中間評価報告書



## 食育指針つやま



津山市食育推進キャラクター「しょくたん」

平成30年3月

津山市



## 目 次

1 . 第 2 次津山市食育推進計画について.....	1
2 . 中間評価の方法.....	2
3 . 数値目標に対する達成状況と評価.....	3
4 . 食育推進の取り組み 5 年間の評価.....	16
5 . 指標、目標値一覧（見直し後）.....	36
6 . 関係団体等の今後の目指す姿と取り組みの方向性 .....	37
7 . 食育推進目標別の重点的取り組み.....	39
8 . まとめ.....	43
9 . 参考資料.....	44

# 1. 第2次津山市食育推進計画について

津山市では、市民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性をはぐくむことができる社会の実現を目指して、平成19年12月に「津山市食育推進計画」を、平成25年3月には「第2次津山市食育推進計画」を策定しています。本計画に基づき、家庭、地域、教育現場、生産者、食品関連事業者、行政等が連携を図りながら食育の推進に取り組んできました。

平成29年度は「第2次津山市食育推進計画」(計画期間：平成25(2013)年度～平成34(2022)年度の間にあたることから、各種アンケート調査により数値目標の達成状況を確認しました。一方で、関係機関・団体、行政は、5年間の取り組みについて自己評価を行いました。

また、現時点での数値目標の達成状況や食をめぐる状況の変化、平成28年3月に策定された国の「第3次食育推進基本計画」を反映させて、指標・目標値の見直しを行いました。

この中間評価で成果や課題を整理し、今後の目指す姿や取り組みの方向性などを再確認し、最終年度に向け関係者がさらに連携、協力を密にして取り組んでいきます。

## 第2次津山市食育推進計画の概要

### 基本理念

「食を楽しむ」「食を大切にし、感謝の気持ちを深める」「食と健康に関心を持つ」「地域の産物・食文化を理解し尊重する」市民をはぐくむことを通して健康で心豊かな生活が送れるしあわせな市(まち)

### 食育推進目標

食事の重要性を理解し、食を楽しむ  
食を大切にし、感謝の気持ちを深める  
食と健康に関心を持ち、健康の保持増進を図る  
食を選択する能力を身につける  
食を通じてマナーや社会性を身につける  
地域の産物、食文化を理解し尊重する

### 食育指針つやま

**つ** かおう、食べよう、新鮮な津山の食材  
**や** る気、元気はバランスの良い食事から  
**ま** いにち早寝早起き、みんなで食べよう朝ごはん



## 2. 中間評価の方法

第2次津山市食育推進計画に掲げている数値目標について、策定時の値と中間評価時の値を比較することによって、達成状況を4段階で判定しました。

	目標達成
	策定時より目標に近づいた
	変化なし(策定時より概ね±1%、0.1回/週又は0.1回/年未満)
x	策定時より目標から遠ざかった

なお、策定時(主に平成23年)と中間評価時(平成28年)の値は、次の調査によるものです。

	調査・アンケート名
(1)	健康基礎調査アンケート
(2)	健康づくりアンケート
(3)	3歳児健診時食生活アンケート
(4)	児童生徒の食生活、日常生活習慣等の調査(津山市教育委員会)
(5)	津山市教育委員会調査
(6)	幼児の食生活アンケート
(7)	行事食に関するアンケート

(6) 幼児の食生活アンケートの策定時調査は、平成26年

(7) 行事食に関するアンケートの策定時調査は、平成25年

### 中間評価時の各調査・アンケートの概要

	調査対象	調査方法	抽出方法	調査時期等	配布数	有効回収数	有効回収率
(1)	20歳以上	郵送配布・郵送回収	層化抽出法(単純無作為)	平成28年8月～10月	20・30・40・50・60歳代、70歳以上各350人(合計2,100人)	798人	38.0%
(2)	小学生 中学生 高校生	直接配布・直接回収	全数	平成28年8月～10月	300人 300人 300人	170人 187人 229人	56.6% 62.3% 76.3%
(3)	3歳児健診対象者	直接配布・直接回収	全数	平成28年度	853人	838人	98.2%
(4)	小学5年生 中学2年生	直接配布・直接回収	各学校 1クラス	平成28年5月～6月	602人 237人	578人 219人	96.0% 92.4%
(5)	学校保健概要調査 学校給食における地場産物の使用割合 (岡山県産品目数/全使用品目数×100)			平成28年度 平成28年6月・11月			
(6)	保育所・幼稚園・認定こども園5歳児	直接配布・直接回収	全数	平成28年11月～12月	912人	713人	78.2%
(7)	保育所・認定こども園	直接配布・直接回収	全数	平成28年度実施状況	29園	29園	100%

### 3. 数値目標に対する達成状況と評価

#### 【食育推進目標】 食事の重要性を理解し、食を楽しむ

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」 の回数の増加(朝・夕の合計)(20歳以上)	9.8回/週 (内訳) 朝 4.2 夕 5.6	9.8回/週 (内訳) 朝 4.1 夕 5.7	10.8回/週	

単独世帯は除く

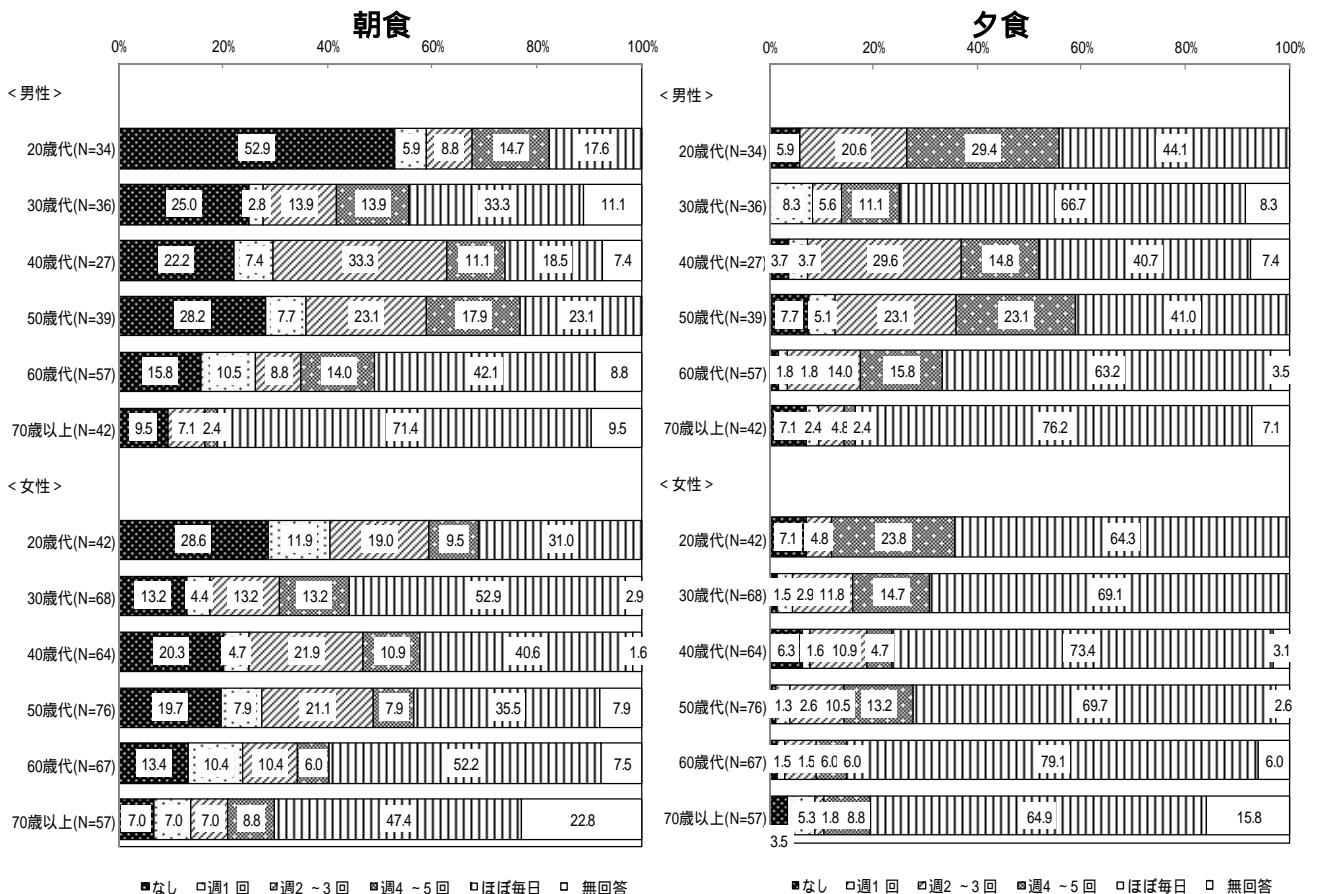
#### 【現状分析】

策定時より核家族の割合が増加していますが、共食回数(朝・夕の合計)は維持できています。若い世代では朝食の欠食が多いため、朝の共食回数が少なくなっています。また、男性は女性より朝夕とも少なく、就業状況の違いによるものと考えられます。

#### 【課題・今後の方向性】

家族との共食は食の楽しさを実感するだけでなく、食に関する様々な知識を修得する機会にもなります。社会環境の変化や価値観の多様化などにより、家族そろっての食事は難しくなっていますが、仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)等の推進にも配慮しつつ、共食の意義や重要性を、ライフスタイルや年代に応じた工夫の仕方などとともに普及啓発する必要があります。

1週間のうちに家族と一緒に食事をする「共食」の回数(20歳以上)



健康基礎調査アンケート(H28)

## 【食育推進目標】食を大切にし、感謝の気持ちを深める

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
食育に関心のある人の増加(20歳以上)	57.7%	54.8%	90%	×

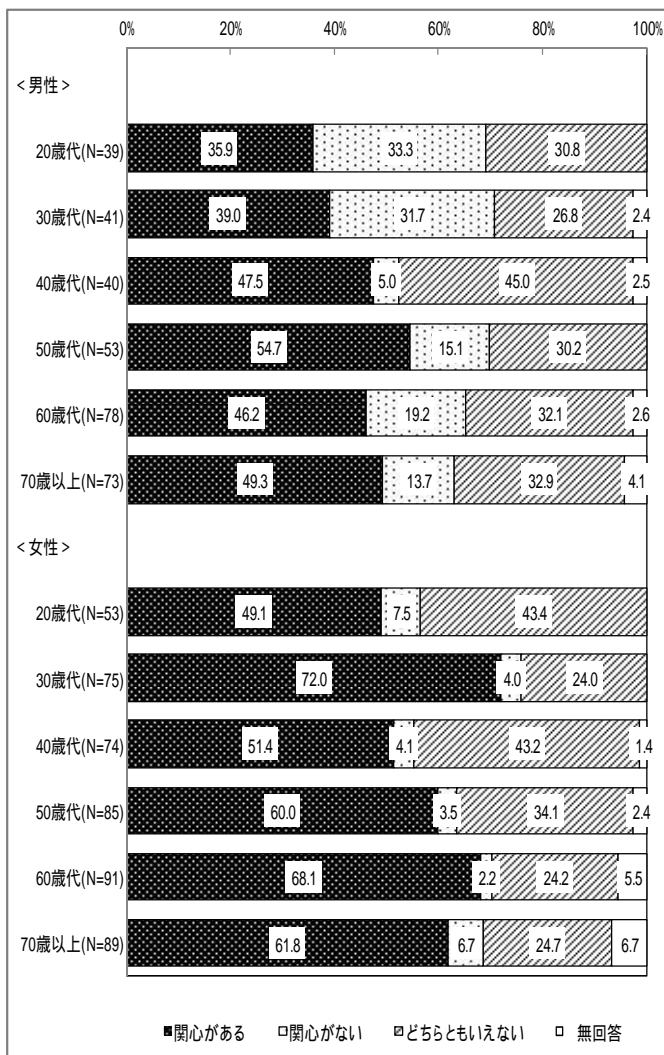
### 【現状分析】

食育に関心のある人の割合は、策定時に比べて減少しています。20・30歳代男性で関心が低くなっていますが、30歳代女性は72%と高く、妊娠、出産を経て子どもの食に関わるようになり、関心が高まっているものと推察されます。

### 【課題・今後の方向性】

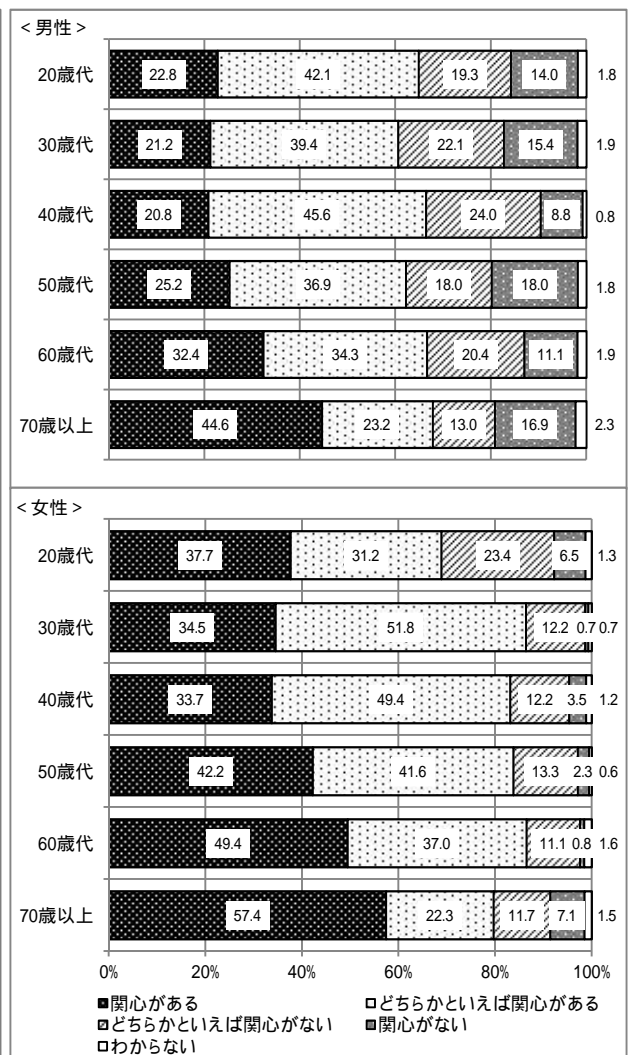
国の調査(平成22年度「食育の現状と意識に関する調査」)によると、食育に関心のある人は、関心のない人よりも朝食を食べる頻度やバランスの良い食事の頻度が高い傾向にあるため、より多くの人に食育に関心を持ってもらうことが欠かせません。食育に関心のない人にも情報が届くよう、地域、企業、子どもを通じた教育機関との連携をすすめるとともに、広報紙や市ホームページなどで情報発信の方法を工夫していく必要があります。

食育に関心のある人の割合(20歳以上)



健康基礎調査アンケート (H28)

【参考:国】食育に関心のある人の割合(20歳以上)



内閣府「食育に関する意識調査」(H27)

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
食事を残さないように食べたり、無駄なく調理したりしている人の増加(20歳以上)	75.2%	72.7%	85%	×

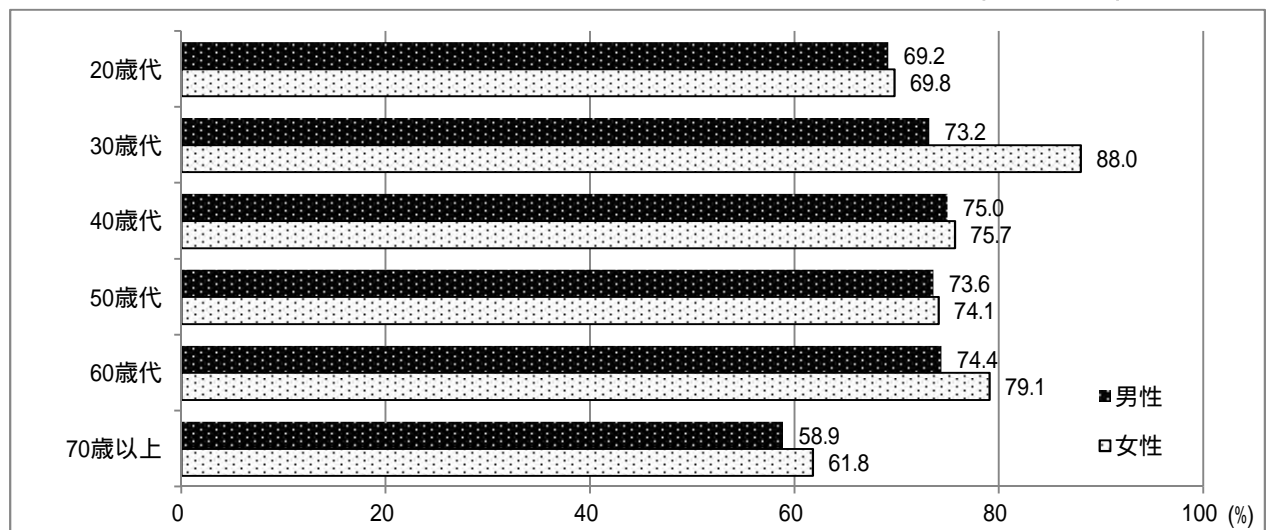
【現状分析】

食事を残さないように食べたり、無駄なく調理したりしている人の割合は、策定時に比べて減少しています。70歳以上が他の年代と比べて低くなっているのは、食が細くなり食べきれなくなる、買い物や食材の管理が難しくなるためと推察されます。

【課題・今後の方向性】

食べ残しや食品廃棄の問題は、環境への負荷を生じさせ、食に関する感謝の気持ちの低下を引き起こします。日々の食生活は自然の恩恵の上に成り立ち、生産者をはじめとして多くの人々によって支えられています。市民がそのことを理解し、実践することができるように、生産者や食品関連事業者等と連携し、家庭での買い物や調理のポイント、外食時の工夫など、具体的な方法を普及啓発していくことが必要です。

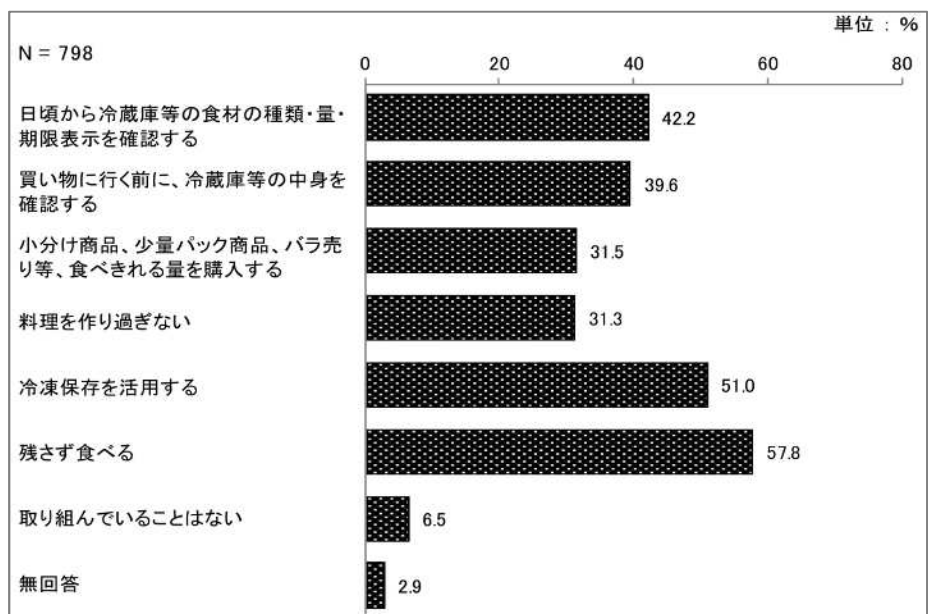
食事を残さないように食べたり、無駄なく調理したりしている人の割合(20歳以上)



健康基礎調査アンケート (H28)

【参考:市】

「食品ロス」(食べられるのに廃棄される食品)を軽減するために取り組んでいること(20歳以上)



健康基礎調査アンケート (H28)



## 【食育推進目標】食と健康に関心を持ち、健康の保持増進を図る

指標名		策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
朝食を毎日食べる人の増加	(3歳児)	92.1%	91.6%	100%	
	(5歳児)	94.9%	94.8%	100%	
	(小学生)	87.6%	80.1%	93%	×
	(中学生)	84.1%	72.4%	85%	×
	(高校生)	76.8%	86.9%	85%	
	(20・30歳代男性)	50.7%	52.5%	85%	
	(20歳代女性)	57.6%	49.1%	85%	×

5歳児の策定時調査はH26(2014)

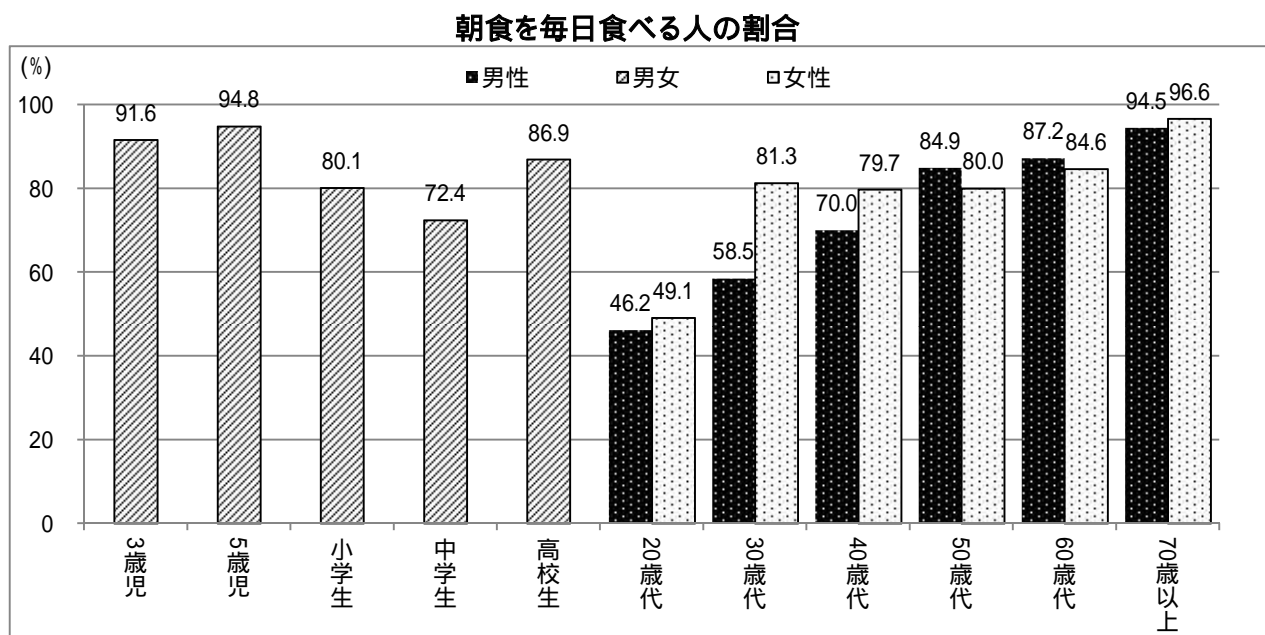
### 【現状分析】

社会環境やライフスタイルの変化により、忙しい家庭が増える中、朝食を毎日食べる3歳児・5歳児の割合は維持できています。高校生が目標に達したのは、校内や他機関との連携による食育の取り組みが広がったためと考えられます。20・30歳代男性も改善の傾向が見られます。一方、小・中学生、20歳代女性は策定時より悪化しています。

朝食を食べない理由は、どの年代も「食欲がない」「食べる時間がない」が多くなっています。また、小・中学生は「休みの日は食べない」が増加しており、休日の就寝・起床時刻が遅いことが原因の一つです。

### 【課題・今後の方向性】

全国的にも若い世代を中心に朝食の摂取率が低迷する中、津山市では小・中学生、20歳代の朝食摂取率が悪化しています。朝食を毎日食べることは、健康的な生活習慣の確立のため、非常に重要です。生活習慣の形成途上にある子どもや次世代に食育をつなぐ大切な担い手である若い世代についてはなおさらです。改善に向けて、家庭、地域、教育現場等が連携して早急に取り組む必要があります。



3歳児：3歳児健診時食生活アンケート、5歳児：幼児の食生活アンケート、小学生・中学生：児童生徒の食生活、日常生活習慣等の調査、高校生：健康づくりアンケート、成人：健康基礎調査アンケート（全てH28）

指標名		策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
野菜を毎食食べる人の増加	(3歳児)	23.0%	19.7%	70%	×
	(小学生)	29.3%	24.0%	70%	×
	(中学生)	25.0%	28.3%	55%	
	(高校生)	30.3%	36.2%	50%	
	(20歳以上)	29.8%	29.6%	50%	

### 【現状分析】

野菜を毎食食べる人の割合は、中学生、高校生では改善の傾向がみられます。一方、3歳児、小学生では策定時より悪化しています。いずれの年代も目標値には及ばない状況です。20歳以上では、ほとんどの年代で女性に比べて男性の方が野菜を毎食食べる人の割合が少なくなっており、また、若い世代ほど食べていないといえます。

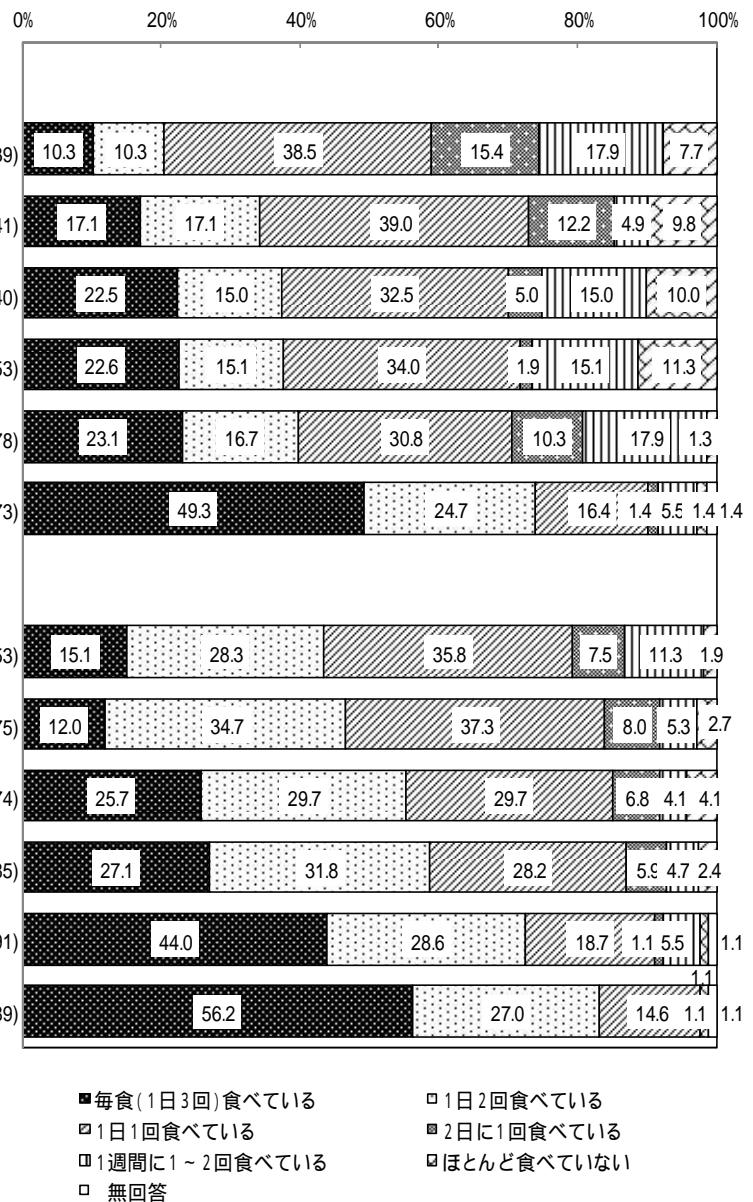
野菜を毎食食べない理由は、食事作りに関しては「調理に時間がかかる」「料理方法を思いつかない」が多く、食べることに関しては「野菜料理が嫌い」「食べる習慣がない」が多くなっています。

野菜料理を食べる回数(20歳以上)

### 【課題・今後の方向性】

野菜の摂取回数が極端に少ない人は、欠食が多いなど、食生活上の他の課題も多いと考えられます。1日2回食べている人では、朝食での野菜摂取が難しくなっています。「副菜」として野菜中心の料理の摂取を勧めるとともに、それ以外にもできるだけ野菜を組み合わせるなど、摂取しやすい方法を啓発していくことも必要です。

一方、高齢者は他の年代と比べて野菜の摂取は多いですが、高齢者が気をつけたい低栄養は野菜の摂取だけでは予防できません。「欠食しない」「主食・主菜・副菜をそろえて食べる」といった基本的な事項も併せて普及啓発する必要があります。



指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数の増加 (朝・昼・夕の合計) (20歳以上)	14.5回/週	13.7回/週	15.5回/週	×

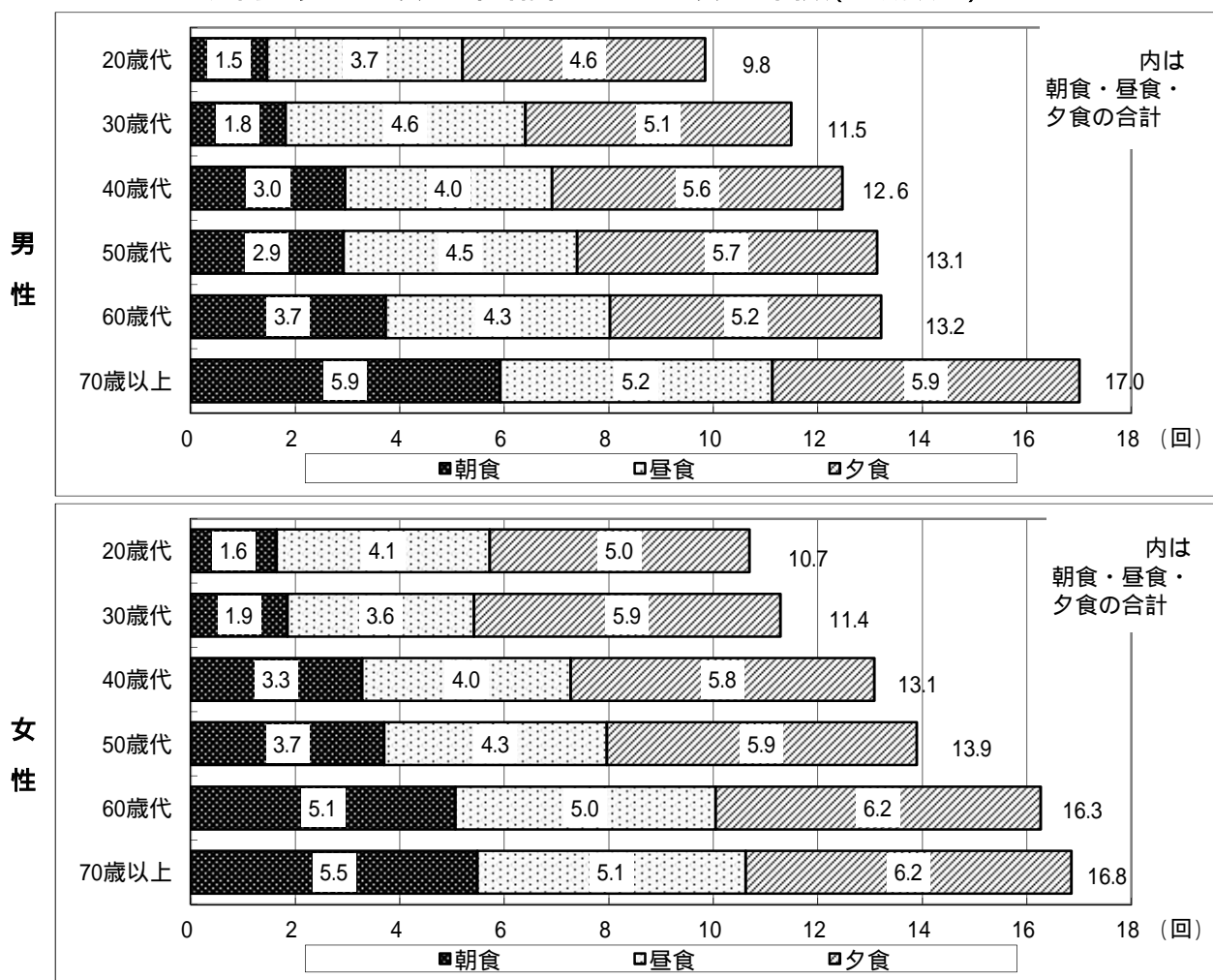
### 【現状分析】

主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数(朝・昼・夕の合計)は、策定時より少なくなっています。すべての年代において、夕食は週5~6日程度、主食・主菜・副食をそろえて食べることができています。朝食については若い世代ほど悪い結果になっており、朝食欠食の影響が考えられます。また、高齢者ではどちらかという、朝食よりも昼食を簡単にすませている傾向があります。全体的には、男性より女性の方が良い結果になっています。

### 【課題・今後の方向性】

生涯にわたって健全な心身を培うためには、子どものころから栄養バランスに配慮した食事を習慣的にとることが必要です。「主食・主菜・副菜を組み合わせた食事」は、栄養バランスに配慮した、わかりやすい食事の目安とされています。毎食実践することは容易ではありませんが、健康に関心を持ち、少しずつでも意識を変えていくことができるよう、特に回数の少なかった若い世代への働きかけが必要です。

1週間のうちに主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数(20歳以上)



指標名		策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
肥満者、やせの者の減少	(小学生の肥満)	7.0%	8.1%	6.5%	×
	(中学生の肥満)	9.2%	8.7%	8.5%	
	(20～60歳代男性の肥満)	23.0%	26.7%	15%	×
	(40～60歳代女性の肥満)	13.3%	12.4%	10%	
	(20歳代女性のやせ)	23.7%	34.0%	15%	×

### 【現状分析】

小学生の肥満は策定時より増加しています。中学生の肥満は策定時よりやや減少しています。

20～60歳代男性の肥満は策定時より増加し、特に40歳代が多くなっています。20歳代女性のやせは策定時より10%以上増加しています。ただし、体型についての指標は短期間では変化が現れにくく、また、食以外の影響も考えられます。

### 【課題・今後の方向性】

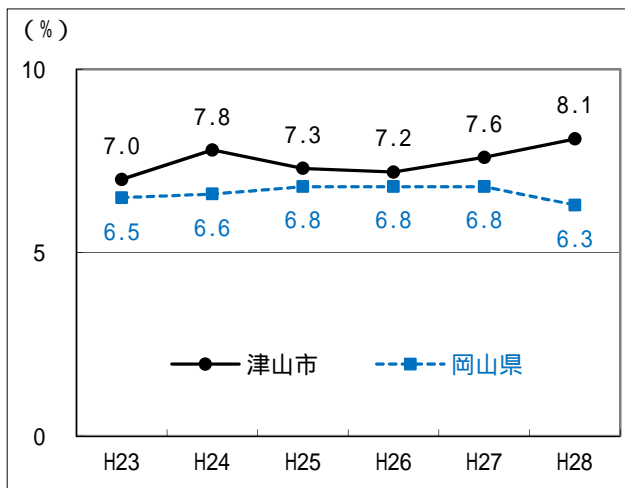
小・中学生の肥満の要因については、兄弟で肥満傾向にあるなどの遺伝的要因以外に、家で一人の時間が増え、その際好きなものだけを食べるような生活習慣に基づく栄養の偏り、運動不足といった要因が考えられます。

子どもたちに栄養バランスだけでなく、食材の品質や安全性について正しい知識を習得させ、「自分の健康を維持するために何をどう食べればよいのかを自ら判断できる能力」を身につけさせるよう、家庭・学校・行政が連携しながら指導に努める必要があります。また、放課後や週末の過ごし方において、積極的に体を動かすことを推奨する環境づくりが重要です。

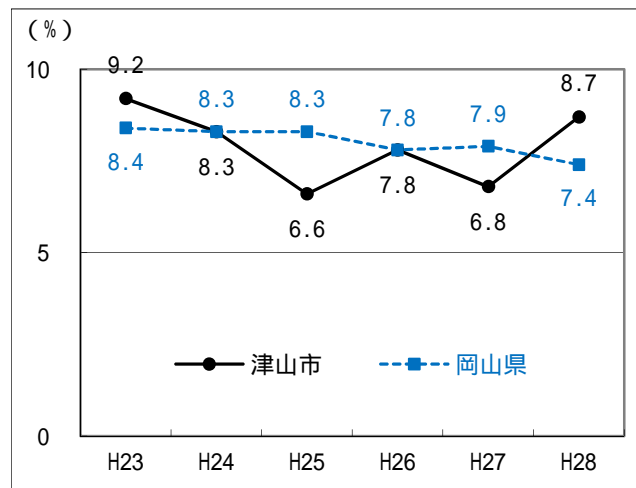
成人については、複数の要因がありますが、若い世代で食に関する課題が多いことは事実です。本計画の他の指標の達成を目指すとともに、間食、適正飲酒、運動などについての取り組みも必要です。

若い女性の中には必要以上にやせ願望のある人もいるため、自分の適正体重を知ることとともに、妊娠前にやせ過ぎていると妊娠中のトラブル発生や低出生体重児の出産リスクが高まることを普及啓発する必要があります。

肥満の状況(小学生)

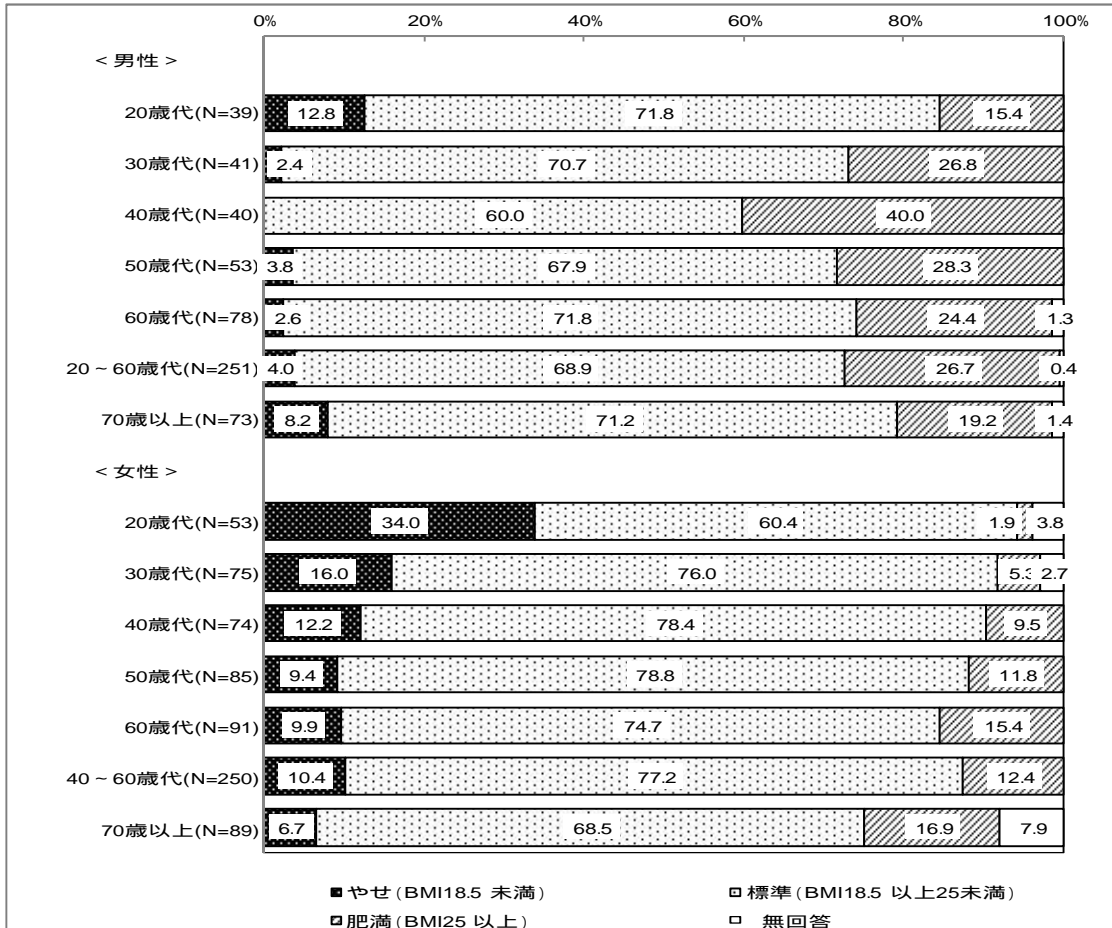


肥満の状況(中学生)



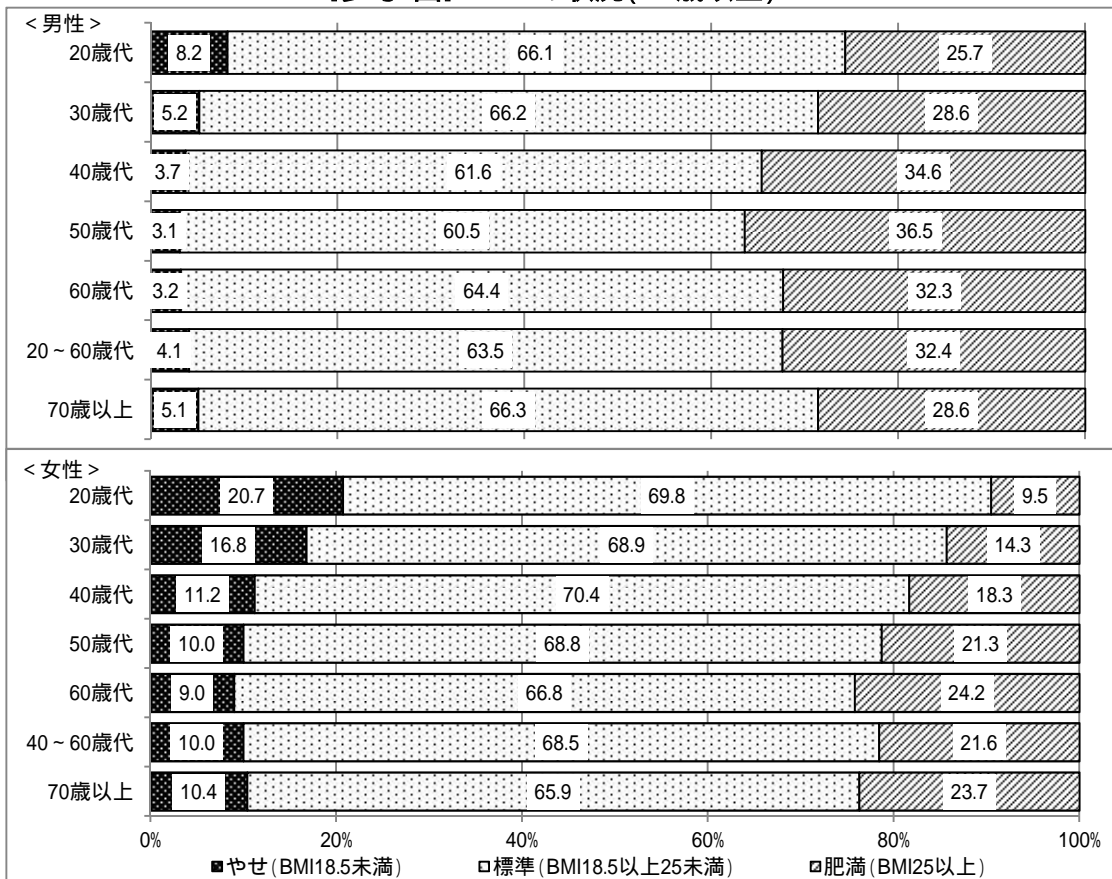
岡山県「学校保健概要調査」

### BMIの状況(20歳以上)



健康基礎調査アンケート (H28)

### 【参考:国】 BMIの状況(20歳以上)



BMI (Body Mass Index  $[kg/m^2]$ , 体重 $[kg]/(身長[m]^2)$  : 体格を表す指数

厚生労働省「国民健康・栄養調査」

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に（半年以上）実践している人の増加（20歳以上）	25.5%	25.3%	30%	

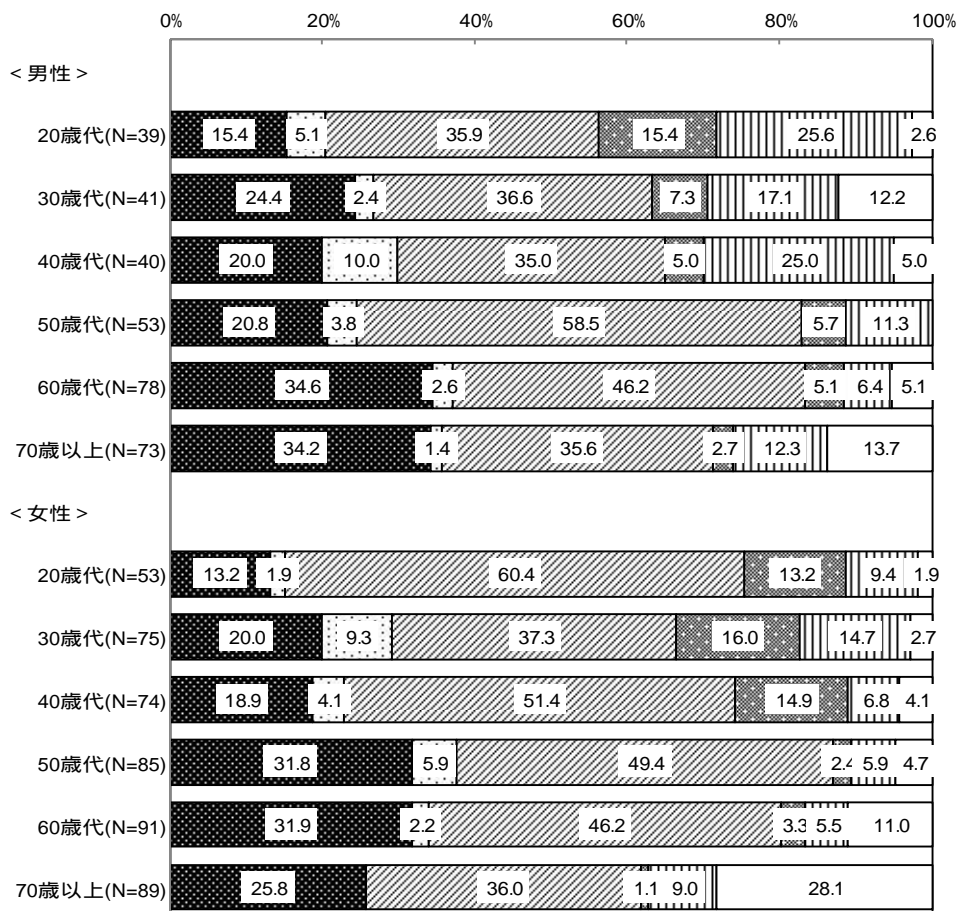
### 【現状分析】

メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している人の割合は、策定時と変化がありません。男性では60歳以上、女性では50歳以上で、他の年代と比べ、実践している人の割合が高くなっています。病気や健康が気になる年代になったことや、退職等で時間の余裕ができたことが実践につながっていると考えられます。

### 【課題・今後の方向性】

肥満でなくても疾患のある人もいるため、メタボリックシンドロームに限らず、生活習慣病全般の予防や改善のため、適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践するための普及啓発が必要です。

メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している人(20歳以上)



- 実践して、半年以上継続している
- ▨ 実践しているが、半年未満である
- ▤ 時々気をつけているが、継続的ではない
- ▥ 現在はしていないが、近いうちにしようと思っている
- ▧ 現在していないし、しようとも思わない
- 無回答

## 【食育推進目標】食を選択する能力を身につける

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
栄養成分表示を参考にする人の増加(20歳以上)	46.7%	44.9%	50%	×

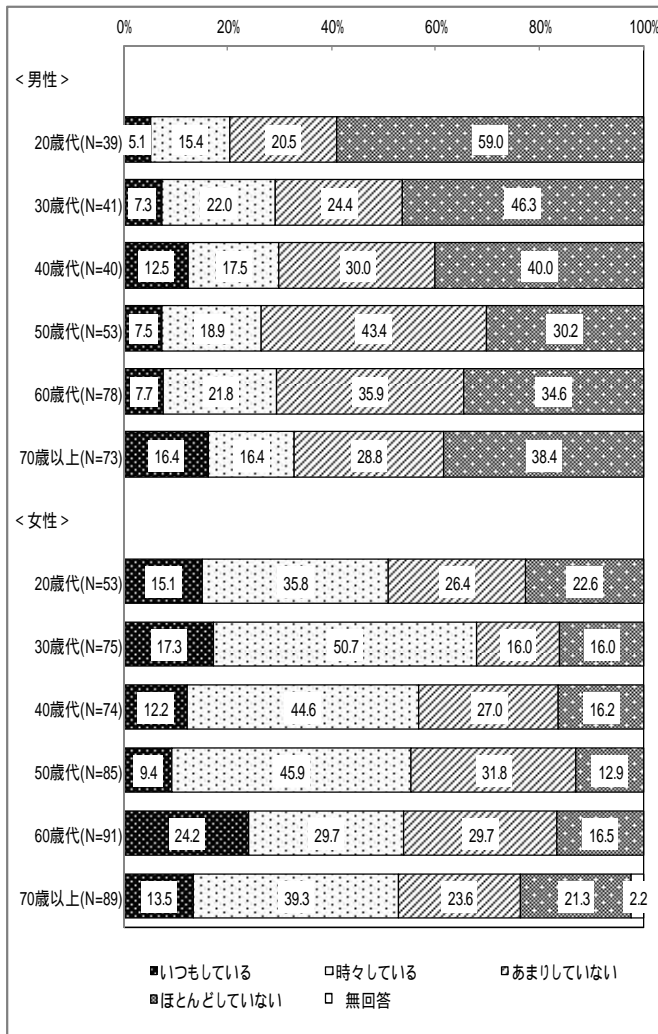
### 【現状分析】

栄養成分表示を参考にする人の割合は、策定時より減少しています。全ての年代において、女性より男性の方が「いつもしている」「時々している」の割合が低くなっており、男性の関心の低さがうかがえます。栄養のバランスについては以前から啓発していましたが、栄養成分表示に特化した取り組みが少なかったという現状があります。

### 【課題・今後の方向性】

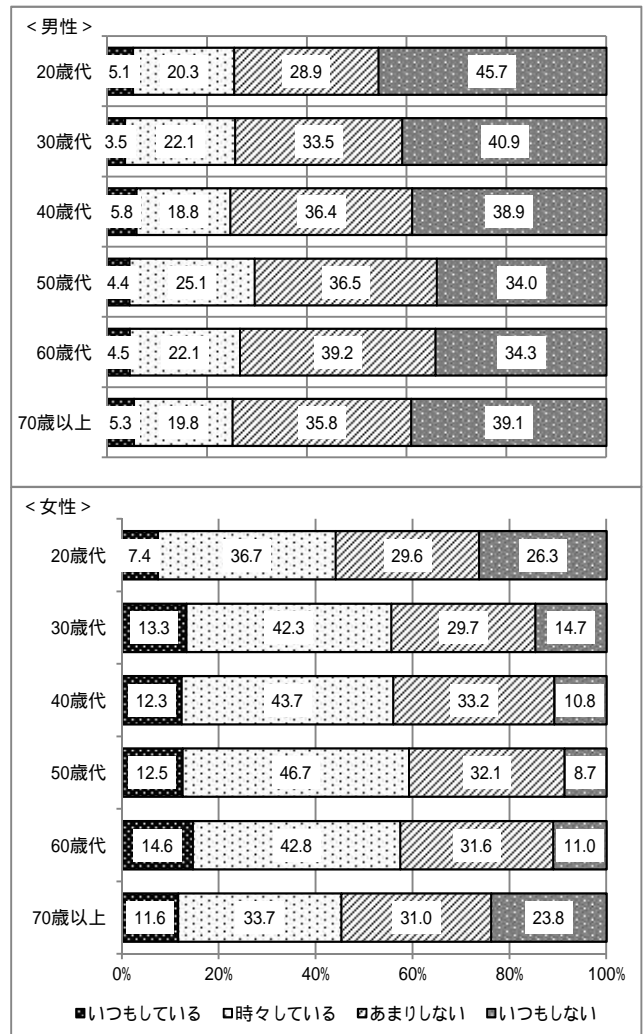
食の外部化が進展しており、弁当や総菜などの中食を利用する機会が増えていくと考えられます。また、減塩や低カロリーなどの健康に配慮した商品も出回るようになってきています。市民が栄養成分表示についての基礎的な知識を持ち、自分に合った食事を適切に選択することができるように、最新の情報を提供していくことが必要です。

栄養成分表示を参考にする人の割合  
(20歳以上)



健康基礎調査アンケート (H28)

【参考:国】栄養成分表示を参考にする人の割合  
(20歳以上)



厚生労働省「国民健康・栄養調査」(H27)



## 【食育推進目標】食を通じてマナーや社会性を身につける

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
家庭で食事のあいさつ(いただきます、ごちそうさま)をしている子どもの増加(5歳児)	86.5%	85.4%	増加	

策定時調査は H26(2014)

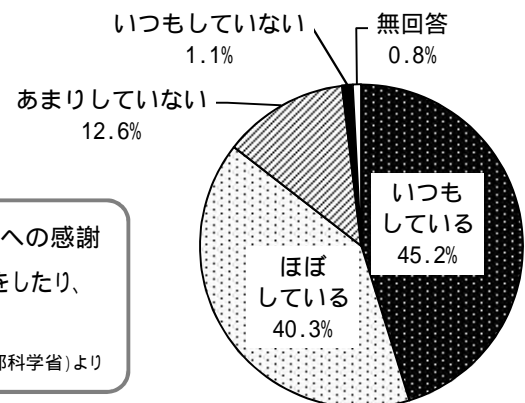
### 【現状分析】

家庭で食事のあいさつ(いただきます、ごちそうさま)をしている5歳児は、H26年と比べてやや減少していました。核家族化やライフスタイルの変化により、家族がそろって食事をとる機会が限られ、食事のマナーにはどのようなものがあるのか、それにはどのような意味があるのかなどを教えることが難しくなっていると考えられます。

### 【課題・今後の方向性】

教育現場では、給食やお弁当の時間に様々な食事マナーについて繰り返し指導し、参観や給食だよりなどで家庭への働きかけも行っています。家庭でも実践できるよう、継続して実施する必要があります。また、日常的な指導に加え、重点的に食事マナーやあいさつの大切さを普及啓発する期間を設定するなど、関係機関・団体、行政などが一体となって取り組むことが必要です。

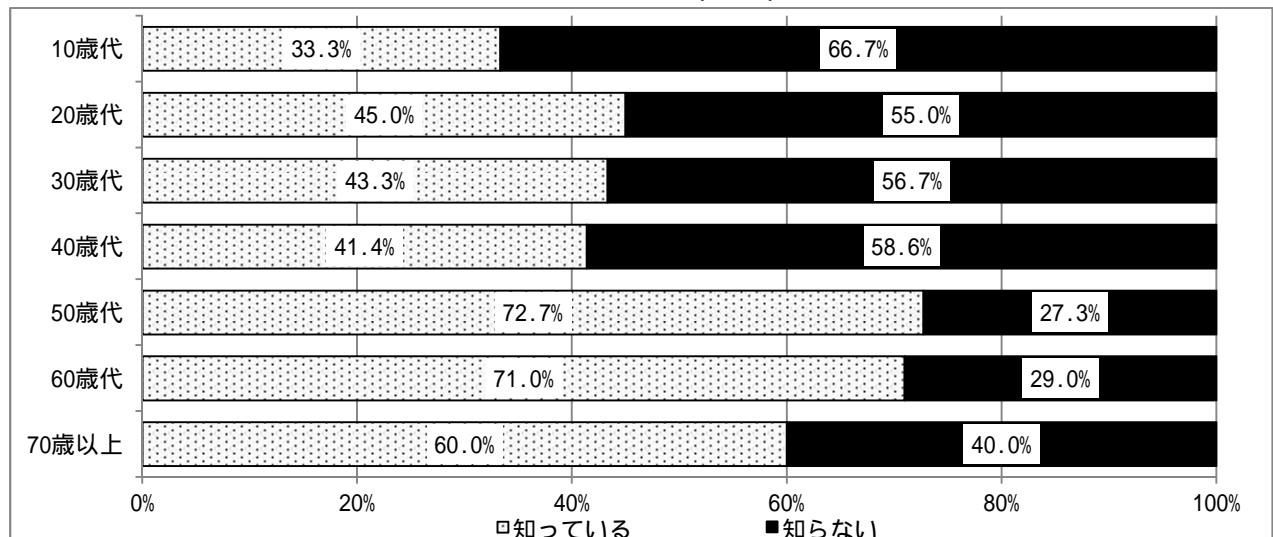
### 家庭で食事のあいさつ(いただきます、ごちそうさま)をしている子どもの割合(5歳児) 幼児の食生活アンケート(H28)



「いただきます」...生き物の命をいただき、自分の命を養っていることへの感謝  
 「ごちそうさま」...食事を作するために食材を育てたり、集めたり、料理をしたり、  
 駆け回ってもらったことへの感謝

「食に関する指導の手引 第一次改訂版」(平成22年3月、文部科学省)より

### 【参考:市】「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味(語源)を知っている人の割合





## 【食育推進目標】地域の産物、食文化を理解し尊重する

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
行事食を取り入れている人の増加(20歳以上)	82.1%	76.6%	90%	×
給食等で行事食を取り入れている回数の増加 (保育所・認定こども園)	13.2回/年	13.9回/年	増加	

給食等で行事食を取り入れている回数の増加(保育所・認定こども園)の策定時調査はH25(2013)年度

### 【現状分析】

行事食を取り入れている人の割合は、策定時に比べ減少し、20・30歳代でやや低くなっています。食の多様化の一方で伝統的な食文化が失われつつあるためと考えられます。

保育所・認定こども園の給食等で行事食を取り入れている回数は、H25年度に比べ増加しています。教育現場では、伝統的なものから新しいものまで多種多様な行事食が提供されています。その様子をお便りやホームページなどで紹介し、時には保護者や地域の方を招くなど、教育現場から家庭や地域に向けて様々な情報が発信されています。

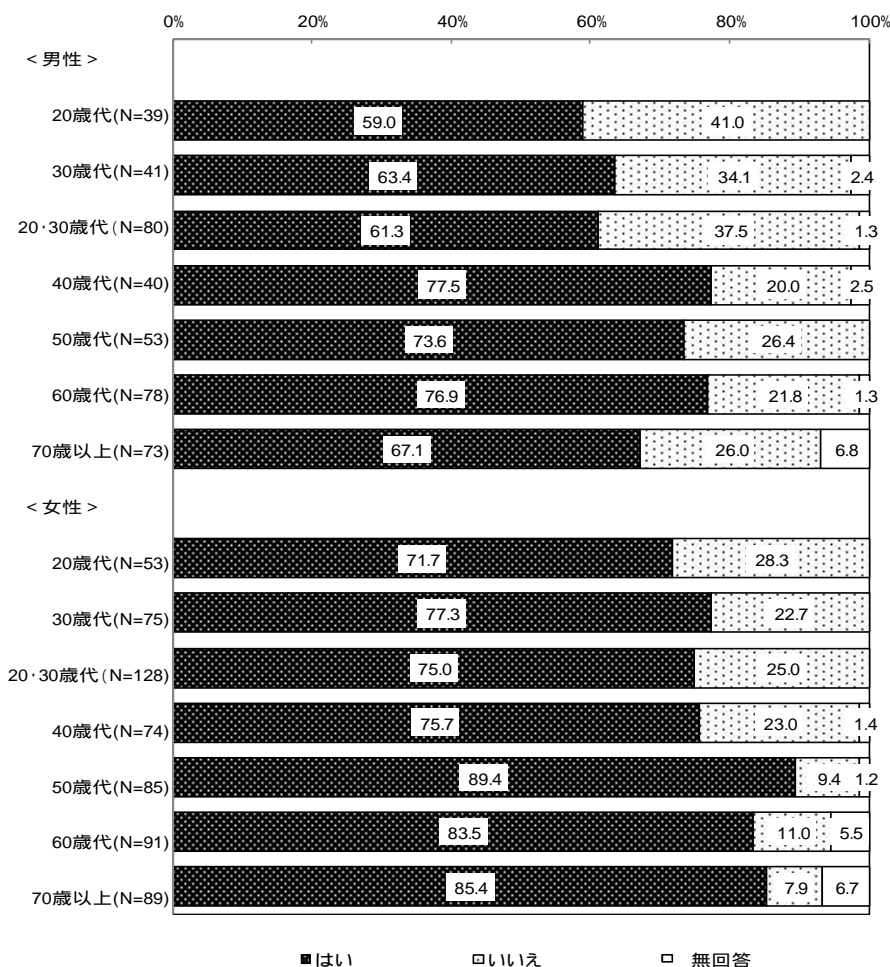
### 【課題・今後の方向性】

食文化を守り次世代に継承していくため、特に伝統的な行事食の普及について、今後も教育現場をはじめ関係機関・団体の取り組みが期待されます。

### 保育所・認定こども園で実施している季節に応じた行事食(主なもの)

行事名	実施率
お花見	28%
こどもの日	93%
七夕	97%
土用の丑	24%
敬老会	17%
お月見	66%
秋・春の彼岸	48%
秋祭り	45%
ハロウィン	34%
七五三	24%
もちつき	59%
冬至	34%
クリスマス	90%
年越し	28%
お正月	38%
七草	59%
鏡開き	21%
小正月	3%
とんど	41%
節分	90%
バレンタインデー	17%
ひなまつり	97%

### 行事食を取り入れている人の割合(20歳以上)



健康基礎調査アンケート(H28)

実施率 = 実施と回答した園数 / 全園数 × 100  
行事食に関するアンケート(H28年度)

指標名	策定時 H23(2011)	中間評価時 H28(2016)	目標値 H34(2022)	中間 評価
地域の産物や旬の食材を使用する人の増加(20歳以上)	82.4%	82.2%	95%	
学校給食に地場産物を使用する割合の増加(6月・11月) 使用割合 = 岡山県産品目数 / 全使用品目数 × 100	41.3%	51.6%	47%	

### 【現状分析】

地域の産物や旬の食材を使用する人の割合は、策定時と変化がありませんでした。今は季節に関わらず様々な食材が手に入るため、旬を意識するのが難しくなっており、また、地域の産物については、購入場所や量が一般に流通しているものより限られる場合もあり、入手しにくい人がいると考えられます。

学校給食に地場産物を使用する割合は、目標値を上回っています。

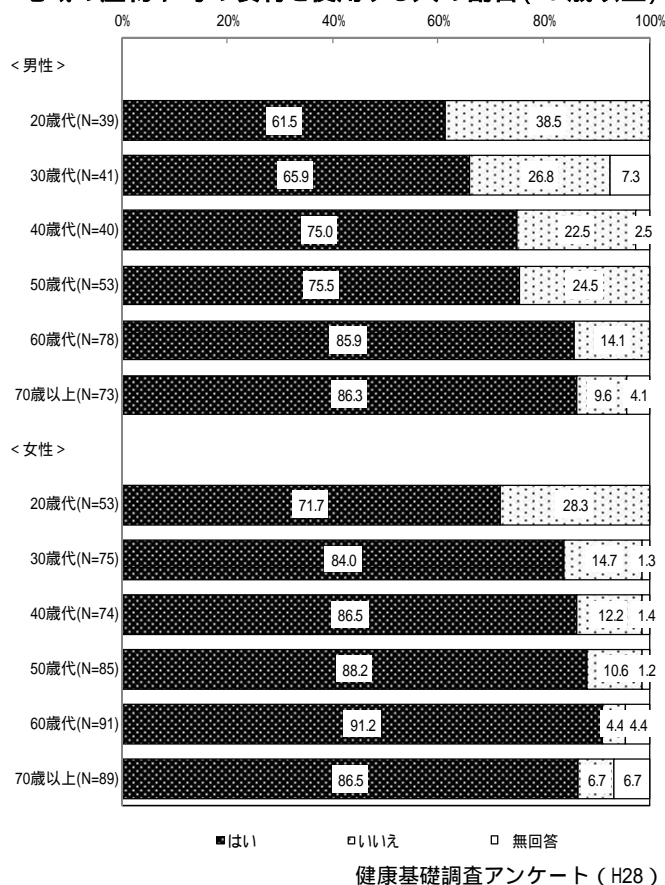
### 【課題・今後の方向性】

旬の食材はおいしくて栄養価も高く、安価なため、毎日の食卓に取り入れるよう普及啓発が必要です。地域の産物については、積極的にアピールするとともに、レシピの提供、販売場所の拡大など、関係者がさらに連携して取り組むことが望まれます。

学校給食における地場産物の使用は野菜が中心であり、天候が大きく影響します。そのため、収穫量と使用量が合致せず、安定して給食に取り入れることが困難な面があります。

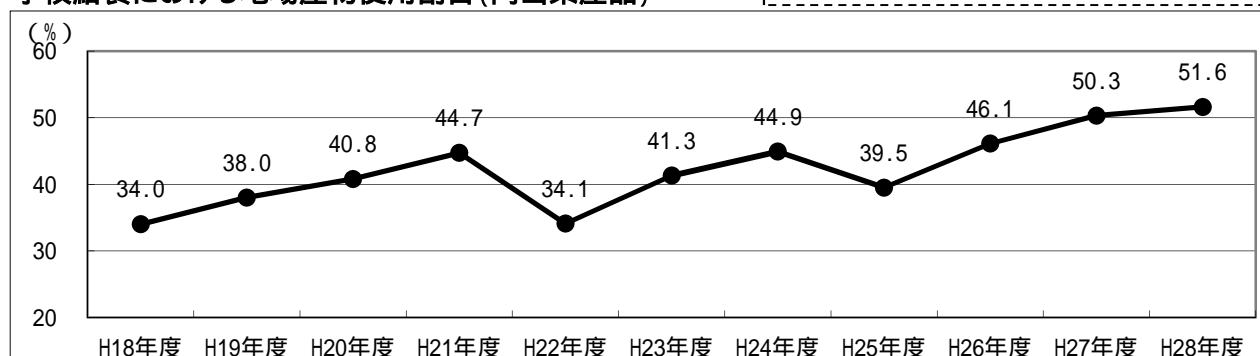
今後は一度の使用量や種類を考慮する等、献立を工夫することで、地場産物の使用回数の増加を図るとともに、生産者や関係者と連携し、品目数の拡大を目指していく必要があります。また、使用割合の増加のみでなく、子どもたちに地場産物の良さや、津山市の食材をより知ってもらえるよう食に関する指導の工夫をしていく必要があります。

地域の産物や旬の食材を使用する人の割合(20歳以上)



学校給食における地場産物使用割合(岡山県産品)

使用割合 = 岡山県産品目数 / 全使用品目数 × 100



津山市教育委員会調査

#### 4. 食育推進の取り組み 5年間の評価（平成25年度～29年度）

##### 美作大学

目指す姿	食育に深い関心を持つ専門性の高い人材の養成と教員など採用実績の向上
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭資格者の養成を促進。</li> <li>・ 食育サークルによる食育活動をさらに知ってもらう。</li> <li>・ 地元との連携を深める。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭教員免許取得者は5年間で約90名である。</li> <li>・ 食育サークルによる食育活動として、農業体験、地元食品を使ったお菓子の開発販売、大学祭参加を行ってきた。</li> <li>・ スーパーマルイとの連携として、マルイフードフェスタへの参加、弁当開発を実施。</li> <li>・ 津山市との連携として、高等学校での食育講座開催</li> <li>・ 食品ロス削減サークルを結成し、フードバンク構想を起案</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭一種免許取得者 H25 28名、H26 20名、H27 10名、H28 21名、H29 10名（見込）である。 この5年間の取得者が津山市に配置されてはいないが、教員配置数の増員に対応できるように教員養成を維持したい。 栄養教諭ではないが、H28年より小学校教員免許コースの学生に対して、給食の現状を理解させるべく、戸島学校食育センターのご協力のもと見学学習を実施している。津山市だけでなく全国的に栄養教諭の地域あたりの配置人数が圧倒的に少ない現状を考え、食育や給食を理解した小学校教員の養成も実施し始めた。第1回目は希望者のみ10名程度であるが、今後講義の一環としていきたいと考えている。</li> <li>・ 食育サークルによる食育活動をさらに知ってもらう。 食育サークルの食育活動は、マルイフードフェスタ、農業体験（収穫体験）、大学祭での食育活動を継続して実施しており、今後も活動を維持していく予定である。</li> <li>・ 地元との連携を深める。 食物学科のスーパーマルイとの協同開発弁当は、一般社団法人新日本スーパーマーケット協会主催のスーパーマーケットお弁当・お惣菜大賞において毎年を受賞を継続している。販売開始の平成25年の第1弾においての約2300食/月提供に始まり、H28年度からのロングセラーの第10弾は約6000食/月の提供までに増加した。津山市域の消費者に対する食育活動として協同開発弁当を通じて地元スーパーと連携して貢献してきたと考えている。 津山市子ども保健部健康増進課との協働による食育活動については、津山東高等学校は3年間、津山商業高等学校は2年間継続して実施している。高校における食育学習は少なく、これを担う重要な取組として、その一助となりうると考えている。 H27年度から、食品ロス削減サークルを中心に、学生の課外活動もしくは研究活動として津山市における食品ロスの現状を調査し、フードバンクの可能性を検討し始めている。地元社会福祉への貢献につなげられる取り組みと考えている。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>栄養教諭資格取得を目指す学生は、1学年あたり15名前後在籍している。学生ゆえに教員資格を保有していないが、将来的にはこのような学生を動員することで学校食教育の一助となればと考えている。また、本学は地元を教育の場とすることを掲げており、様々な関連の団体の協力をいただいた学生教育を取り入れたいと考えている。</p>

##### 津山市医師会

目指す姿	家族との楽しい食生活が子供たちの心身の健全な発育に必要なものである。
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨床の場において、食育の重要性に関して指導をしていく。</li> <li>・ 食物アレルギーの子供たちが安全な食生活を送れるように関係機関と協力していく。</li> </ul>

5年間の実施状況	<p>日常の診療において、生活習慣の改善、“早寝早起き朝ごはん”の重要性を説明、特に“朝ごはん”を食べることを指導してきた。</p> <p>小・中学生が学校で安全に給食が食べられるように、津山市食物アレルギー対応検討会議の委員として、津山市版「食物アレルギーの手引き(改訂版)」(平成29年1月発行)の作成にかかわった。乳幼児に対しても、保育園で使用する「食物アレルギー管理表」の作成に関与した。</p>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>医師会の食育への関わりは、主に個々の会員の診療での生活食事指導であったが、専門団体として医療・医学の立場から他の関係団体と協力して、食育の推進に取り組む必要がある。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>規則正しい食生活を指導していく。</p> <p>思春期以降の肥満には、幼児期の肥満が強く関連するとされており、幼児肥満の予防のため、関係機関と協力して肥満予防への介入指導をする。</p> <p>アレルギー疾患対策基本法及びアレルギー疾患対策の推進に関する基本的な指針に従い、特に食物アレルギーに関して各機関の連携協力体制を整える。</p>

## 津山歯科医師会

目指す姿	<p>お口から食べ物を摂り、よく噛み、よく味わい、うまくだrinkみ込むことで、健康な生活を送る。</p>
取り組みの方向性	<p>口腔機能(咀嚼機能)を使って「しっかり噛み、五感を使っておいしさを味わい、共に食卓を囲みながら、いい笑顔と会話によって楽しく食事をしてコミュニケーションをとること」で満足感やくつろぎが得られ、健康増進につながることを啓発する。</p>
5年間の実施状況	<p>「噛ミング30(カミングサンマル)運動」を実施し、噛むことの大切さを市民に啓発し、摂食・嚥下、発音など口腔機能の育成、向上、維持を計り、生活の質を確保する。</p> <p>幼児歯科健診、「すくすく健口クラブ(親子クラブ、保育園、幼稚園)」において、食べる機能を育成し、しっかり噛めてよく味わえる環境作りを指導。</p> <p>幼稚園、小学校に「出前講座」を実施し、児童・生徒にお口の健康の大切さと、噛むことが体に与える影響について教示。</p> <p>「いきいき健口クラブ(老人会)」において、口腔機能を維持し安全な食生活が行えるよう指導。また地域包括支援事業の特定高齢者口腔機能向上プログラムにおいて、口腔機能低下者のための支援プログラムを実施。</p> <p>津山歯科医師会ホームページに「健口体操」の動画をアップし、身近な方法でお口の体操を体験していただき、噛めるお口を育成していただくよう情報提供。</p>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>・「すくすく健口クラブ」108回 参加人数約2200人 スタッフ人数のべ約200人</p> <p>・いきいき健口クラブ」64回 参加人数約700人 スタッフ人数のべ約120人</p> <p>・「特定高齢者口腔機能向上プログラム」のべ90回 参加人数のべ約800人 スタッフ人数のべ約180人</p> <p>・「出前講座」61回 参加人数約1800人 スタッフ人数のべ約130人</p> <p>ライフステージごとの啓蒙活動ができた。</p> <p>集団講習会と個別指導を実施できた。</p> <p>参加者の問題点をピックアップして問題解決に取り組むことができた。</p> <p>「オーラルフレイル」の状態とその解決について取り組むことができた。</p> <p>「おくちぼかん」の状態とその解決について取り組むことができた。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>「噛ミング30(カミングサンマル)運動」により、噛むことの大切さを市民に啓発し、摂食・嚥下、発音など口腔機能の育成、向上、維持を計り、食べ物をおいしく、安全に体に取り込み、生活の質を確保する。</p>

## 津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会

目指す姿	<p>地域の人々が食の重要性を理解し、健全な食生活を実施する。</p>
------	-------------------------------------

取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域で食育事業を実施し、乳幼児から高齢者までの食育を通じた健康づくりをすすめる。</li> <li>・健康寿命の延伸に向けて、食育を通じた健康な人づくりをすすめる。</li> </ul>																																																		
5年間の実施状況	健康づくりを支える地域のボランティアとして、正しい食習慣やバランスのとれた食生活の定着など、地域住民の食生活改善に向けた活動を実施した。																																																		
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>市内全域で委員数は約 1,000 人、44 の支部がある。委員個人での活動に加え、各支部での活動、会全体での活動というように、組織的に取り組んでいる。また、関係機関・団体、行政等と連携した活動も多数実施している。※特に記載のないものは毎年実施</p> <p><b>【会全体での活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・リーダー研修会…支部長等対象(テーマ:生活習慣病予防、高齢者の低栄養予防など)</li> <li>・広報活動…全戸配布の情報誌「すこやか通信」で、野菜やおやつレシピを紹介(H27、H28)</li> <li>・イベント等への協力…「津山市食育フェア」「おぎゃっと 21in 津山」「市集団健診」など</li> </ul> <p><b>【各支部での活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・支部研修会(テーマ:朝食、野菜、栄養成分表示など)</li> <li>・食育・健康づくりに関する事業(下表参照)</li> </ul> <p><b>【各委員の活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市栄養教室や各種研修会に参加し、自己研鑽</li> <li>・家庭、地域へ普及啓発(一口運動)</li> </ul> <p>委員数及び各支部での活動回数・参加者数(関係機関・団体、行政等と連携した活動も含む)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25 年度</th> <th>H26 年度</th> <th>H27 年度</th> <th>H28 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>委員数</td> <td>1,102 人</td> <td>1,086 人</td> <td>1,050 人</td> <td>1,054 人</td> </tr> <tr> <td>健康福祉まつり</td> <td>32 回 4,636 人</td> <td>28 回 3,064 人</td> <td>33 回 3,745 人</td> <td>29 回 2,723 人</td> </tr> <tr> <td>すこやか料理教室(高齢者)</td> <td>48 回 2,486 人</td> <td>47 回 2,887 人</td> <td>44 回 2,536 人</td> <td>42 回 2,579 人</td> </tr> <tr> <td>すこやか料理教室(乳幼児)</td> <td>32 回 1,650 人</td> <td>30 回 1,440 人</td> <td>32 回 1,227 人</td> <td>31 回 1,119 人</td> </tr> <tr> <td>栄養教室伝達講習会</td> <td>52 回 1,007 人</td> <td>56 回 1,102 人</td> <td>48 回 836 人</td> <td>58 回 1,137 人</td> </tr> <tr> <td>おやこの食育教室</td> <td>5 回 97 人</td> <td>8 回 182 人</td> <td>5 回 104 人</td> <td>6 回 80 人</td> </tr> <tr> <td>男性料理教室</td> <td>34 回 746 人</td> <td>33 回 652 人</td> <td>34 回 674 人</td> <td>38 回 690 人</td> </tr> <tr> <td>育児相談</td> <td>61 回 585 人</td> <td>57 回 513 人</td> <td>57 回 686 人</td> <td>50 回 448 人</td> </tr> <tr> <td>汁物の塩分測定</td> <td>302 件</td> <td>313 件</td> <td>262 件</td> <td>203 件</td> </tr> </tbody> </table> <p>平成 29 年度の委員数は 1,052 人で、各事業も同程度実施する予定。</p>		H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	委員数	1,102 人	1,086 人	1,050 人	1,054 人	健康福祉まつり	32 回 4,636 人	28 回 3,064 人	33 回 3,745 人	29 回 2,723 人	すこやか料理教室(高齢者)	48 回 2,486 人	47 回 2,887 人	44 回 2,536 人	42 回 2,579 人	すこやか料理教室(乳幼児)	32 回 1,650 人	30 回 1,440 人	32 回 1,227 人	31 回 1,119 人	栄養教室伝達講習会	52 回 1,007 人	56 回 1,102 人	48 回 836 人	58 回 1,137 人	おやこの食育教室	5 回 97 人	8 回 182 人	5 回 104 人	6 回 80 人	男性料理教室	34 回 746 人	33 回 652 人	34 回 674 人	38 回 690 人	育児相談	61 回 585 人	57 回 513 人	57 回 686 人	50 回 448 人	汁物の塩分測定	302 件	313 件	262 件	203 件
	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度																																															
委員数	1,102 人	1,086 人	1,050 人	1,054 人																																															
健康福祉まつり	32 回 4,636 人	28 回 3,064 人	33 回 3,745 人	29 回 2,723 人																																															
すこやか料理教室(高齢者)	48 回 2,486 人	47 回 2,887 人	44 回 2,536 人	42 回 2,579 人																																															
すこやか料理教室(乳幼児)	32 回 1,650 人	30 回 1,440 人	32 回 1,227 人	31 回 1,119 人																																															
栄養教室伝達講習会	52 回 1,007 人	56 回 1,102 人	48 回 836 人	58 回 1,137 人																																															
おやこの食育教室	5 回 97 人	8 回 182 人	5 回 104 人	6 回 80 人																																															
男性料理教室	34 回 746 人	33 回 652 人	34 回 674 人	38 回 690 人																																															
育児相談	61 回 585 人	57 回 513 人	57 回 686 人	50 回 448 人																																															
汁物の塩分測定	302 件	313 件	262 件	203 件																																															
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食育・健康づくりに関する多くの事業を継続して実施している。長年の食習慣を変えることは難しいが、繰り返し働きかけを行っていると、地域の方の食生活に変化がみられる。今後も生活習慣病予防のための減塩食普及活動、野菜一皿プラス運動などは、重点的に取り組んでいく。また、子どもや若い世代には朝食摂取や共食の啓発、高齢者へは低栄養予防など、年代や地域の課題に応じた取り組みをすすめていく必要がある。</li> <li>・社会環境やライフスタイルの変化により、忙しい生活を送る中、「食」の大切さを忘れがちである。地域住民の生活に密着した活動に携わるボランティアとして、関係機関・団体、行政等と連携して、「食」を通じた地域のつながりを強化していきたい。</li> </ul>																																																		

## NPO法人 津山市消費生活モニター連絡会

目指す姿	私たちがより良く食べ、より良く生きるために役立つ知識や暮らしの知恵を伝え、食の大切さを自覚できる人を増やす。
取り組みの方向性	家で調理して食べることを楽しめるように、簡単に作れて便利なレシピの紹介をすると共に、ちょっと気をつけたい「食」の豆知識を紹介していく。
5年間の実施状況	<ol style="list-style-type: none"> <li>1.「有限会社まほらファーム」との協働で、有機野菜の栽培に取り組みました。 また、津山市民農園の方々に協力を頂き、畑の面積を増やしました。</li> <li>2.「城西まちづくり協議会」との協働で、作州民芸館で毎月第3日曜日に開催する「野菜と魚の市」と、毎週木曜日に開催する「喫茶」に参加し、地場産食材・有機野菜・無添加調味料を紹介して、食の安全を目的とした啓発を行いました。</li> </ol>

5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>1. 有機野菜の栽培</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 平成26年度～28年度 毎週火曜日</li> <li>・スタッフ 各3名</li> <li>・自己評価 津山市民農園の方々との交流が始まり、野菜の収穫量が増えました。また、まほらファームを含む3団体が協力し合うことで、それぞれの活動に広がりが出てきました。</li> </ul> <p>2. 食の安全を目的とした啓発活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実施日 A:毎月第3日曜日(参加人数:各100名～150名) B:毎週木曜日(参加人数:各15名～20名)</li> <li>・スタッフ 各2名</li> <li>・自己評価 作州民芸館を利用されるの方々には、お茶を飲みながら会話を楽しめる場所として、喫茶「ほっとカフェ」をご利用いただきました。当団体が栽培した有機野菜や、地場産食材・無添加調味料を丁寧に紹介し、無理なく日常生活に取り入れて頂くことで「バランスの良い食生活を送れる」と喜んでいただいています。29年度の後半は、簡単に作れて便利なレシピと、ちょっと気をつけたい「食」の豆知識を紹介していきます。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食物アレルギー、糖尿病、高血圧などの持病がある人に対して、心くばりのある言葉がけができる知識が必要である。</li> <li>・刻々と変化していく「食育」「食の安全」の情報を収集して、子どもたちの健全な成長のために、また、大人の健康な生活のために食に対する情報を提供していく。</li> </ul>

### 公益社団法人 岡山県栄養士会津山支部

目指す姿	会員個々のレベルアップを図り、各々の立場でより良い活動を行っていく。
取り組みの方向性	栄養・食生活講習会事業及び栄養・食生活相談事業の実施や他団体の事業において会員を派遣する。
5年間の実施状況	<p>○会員同士の交流会を通してスムーズな栄養サポート体制の基盤を作り、地域の幅広い世代の方々を対象に、毎回テーマに沿った栄養・食生活相談事業を実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・研修及び会員交流会では、会員の要望を取り入れたテーマの選定により自己研鑽意識を高め、会員相互の交流を図るために毎回グループワークを行った。</li> <li>・幼稚園および中学生、高校生への食育教室では、こどもや若い世代の朝食摂取や野菜摂取につながるよう配布物等を工夫した。</li> <li>・市民を対象とした『まちの保健室』での栄養相談コーナーでは、展示コーナーを設けるなど参加しやすい内容を見直し、さらに担当者を増やすことで個々への相談対応が可能となり、参加人数は増加傾向である。</li> <li>・新たに始めた訪問介護員資質向上のための研修事業では、毎回調理実習を行うことにより具体的な食のサポートにつながるよう取り組んだ。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・会員対象交流会・研修会 参加人数平均 22名(23年度)→34名(28年度)</li> <li>・栄養・食生活相談事業 実施回数 10回(23年度)→15回(28年度)</li> <li>『まちの保健室』参加人数/担当者 50名/担当2人(23年度)→100名/担当4人(28年度)</li> <li>・新たに再開または始めた事業 <ul style="list-style-type: none"> <li>27年度より『おぎやと21in津山』参加 離乳食相談、食育コーナー:対象100名</li> <li>27年度より『幼稚園食育教室』2園で開催→28年度4園</li> <li>28年度より『津山中学校食育教室』:対象80名</li> <li>『訪問介護員資質向上のための研修事業』4回シリーズ:対象のべ100名</li> </ul> </li> <li>・会員研修への参加人数も徐々に増えており、会員が協力して地域の人々の健康の維持・増進をサポートするという意識は高まっているが、新たにサポート要員となる会員数は伸び悩んでいる。</li> <li>・新規事業も含め、事業内容、要員体制等、計画的に活動できた。</li> <li>・昨年より岡山県栄養士会の事業として始めた『訪問介護員資質向上のための研修事業』は、調理実習を組み入れることでより実践的に学べたと評価いただき、次年度の継続事業となった。</li> </ul>

今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な栄養相談サポーターとしてより多くの市民のみなさんに関わる事業ができる体制づくりを進めるためにも、会員数の増加、研修会への参加を呼びかける必要がある。</li> <li>・食育に関わる事業への取り組みを計画的に推進できるよう、行政との連携体制を強化する。</li> </ul>
-----------------	--

## 津山市PTA連合会

目指す姿	保護者が正しい食生活の必要性を理解する。
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食に対する関心を喚起し、正しい情報を提供する。</li> <li>・望ましい食習慣のあり方や栄養摂取の必要性を働きかける。</li> </ul>
5年間の実施状況	平成 25 年度～29 年度まで、市内8中学校ブロックごとに「朝食づくり講座」を開催した。中学校や公民館の調理室を会場に、市内の栄養士の先生を講師に招き、朝食の大切さについて簡単なお話を聞き、調理実習を行った。調理実習の献立は、栄養士の先生の手作り。忙しい朝でも手早くできる栄養満点のメニューを考案していただいた。毎年保護者・児童・生徒・教職員など多くの参加者があり、朝食をとることの大切さを広く周知啓発してきた。
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>5年間の朝食づくり講座開催回数は、40回。参加者延べ人数は、1,370名。講座開催のため参加したスタッフは、延べ120名。</p> <p>PTA連合会発行の広報紙(PTA会員9,200名)に毎年母親委員会・朝食づくり講座の特集記事を掲載し、また母親委員会活動報告集「ふれあい」(年度末に発行)には参加者アンケート結果も含めレシピ集なども掲載した。参加者からは「改めて朝食の大切さを感じる事ができた」「おいしくて子どもと一緒に作ることができるメニューでよかった」「新しく野菜の使い方や料理方法がわかり勉強になった」「講師の先生から栄養のお話が聞けてとても勉強になった」「朝食メニューがマンネリ化していたのでとても参考になった」等の感想が寄せられた。</p> <p>市内8中学校ブロックでの開催は、日程決めから実施まで、学校間の連絡・準備は大変だが、地道な活動を続けてきたことにより、朝食をしっかりと食べることはとても大切なことであるとの認識が広く定着したと思う。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>市内8中学校ブロックとも参加者集めに苦慮している。参加者の大半は母親だが、共働き家庭が多く、土曜日の昼間に行事に参加できる人が少なくなっている。事業当日の役員の負担が大きく、また母親委員会への補助金が廃止されたことから、講座の内容・進め方をもう少しスリム化できないかとの意見もあり検討が必要。現在の参加者は母親が中心だが、今後は父親にも広く参加を呼び掛けたい。</p> <p>「朝食づくり講座」は平成17年から続いている。バランスのよい栄養満点の朝食を毎日とることは、体力増強・学力向上に直結し、大人になってからの生活習慣病を未然に防ぐことにもつながる。今後も母親委員会を中心として末長くこの事業を継続し、引き継いでいくことが重要と考えている。</p>

## 津山市保育協議会

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児が幅広い食の体験をし、食を楽しむ。</li> <li>・保育園と保護者が一体となり、朝食だけでなく食生活全般に関心をもってもらう。</li> <li>・子ども中心の生活リズムの定着に向けて、一人一人を大切にされた保育実践を行う。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・離乳食、アレルギー除去食についての専門的な研修を増やす。</li> <li>・保護者向けに栄養指導の実践を行う。</li> <li>・講演会、親子クッキング、料理講習会を実施する。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育園、保護者、行政との連携を図り食育推進の取組みの一環として市内5歳児(年長児)対象として調査アンケートを実施した。このアンケートは中間評価に向けて進捗状況を把握し今後の取組みに反映させるために実施した。</li> <li>・各保育園での生活リズムの定着に向けて取り組みや常に職員研修を重ねる事により一人一人を大切にされた保育実践につながる事ができた。</li> <li>・保育協議会として、調理担当者会を毎年3回開催し各園の実態や問題点等の意見交換や話し合いを重ねる事により園に持ち帰り全職員の意識を高めた。</li> </ul>

5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児の食生活アンケート」調査結果について 調査対象者 市内5歳児(年長児) 調査数 912人、回収数 713人、回収率 78.2% 質問12問の集計結果が報告されている。</li> <li>・食生活の関わりの中で、特にアレルギー除去食の提供は保護者との密な確認事項を必要とし、津山市一体となり「アレルギー対応ガイド」に基づき津山市で統一された食物除去意見書及び保育所生活管理指導表が作成され、各保育園において共通理解ができ、安心安全な食事の提供が図れている。そして、各職員が研修に参加し、意識を高める事ができた。</li> <li>・保育協議会では、毎年調理担当者会を年3回開催し、献立、離乳食、行事食等の意見交換や話し合いを重ね、給食でも不足になりがちな鉄分、カルシウムの含まれたレシピを作成し、各保育園に配布した。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「幼児の食生活アンケート」調査結果では多くの集計結果が出ているので、さらに5歳児アンケートを数年後同じアンケートに取り組み比較する事によりどの程度反映されたか食育進捗状況の把握に努めたい。</li> <li>・各保育園で「基本的な生活習慣の自立」「食育の重要性」について園児への保育士指導と共に保護者への指導を継続していく。</li> <li>・各機関との連携のもと「食育に関する」講演会、研修会の開催。</li> <li>・生き生きとした子どもに育つための施策について考えていく。</li> </ul>

## 津山市公立幼稚園

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい食生活習慣を身につける。</li> <li>・友達や保育者や家族と一緒に食べることを楽しむ。</li> <li>・栽培、収穫、買い物、調理、食事などの体験を通し、食の大切さ、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・食事のマナーやルールが身につき、偏食が少なくなる。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各園の教育課程に食育を位置づけ、具体的な指導計画を立案し、実践する。</li> <li>・幼児の食生活、嗜好、習慣を把握する。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各園が地域に合わせた指導計画を作成し、実践した。</li> <li>・季節の野菜栽培、収穫、調理、食事体験。</li> <li>・保護者や栄養士、地域の人たちと共に取り組む食育。</li> <li>・行事食の体験をすることで伝統文化の継承。</li> <li>・手作り弁当実施による、喜びと愛情をもった子育て支援。</li> <li>・近隣小学校での給食体験による食育と、小学校への接続。</li> <li>・他団体と共に食育に取り組み、食に対しての幅広い体験と深い学び。</li> <li>・食育活動の広がりにおける、安全(アレルギーや衛生等)の取組。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園内で、幼児が教師や地域の方に手伝ってもらい、季節の野菜を育て、収穫し、調理し、みんなで食べるという活動が充実した。幼児が多くの野菜の育つ過程を身近に体験したり、簡単な調理を経験したりすることで、野菜を身近に感じ、野菜を食べる意欲が高まり、野菜のおいしさもより味わうことができている。</li> <li>・食べたことのない野菜や嫌いな野菜も多い中、自分たちが育て調理したり、友達と一緒に食事だったりすると、食べられたり、おいしさがわかったりできている。</li> <li>・保護者、栄養士、地域の方と一緒に食育に取り組むと、家庭での食事のメニューや調理の仕方だけでなく、多くの保護者に旬の野菜、津山の野菜を知らせることができた。</li> <li>・行事食を大切に取り組んでいる園が多く、伝承行事と食について親子で学べている。</li> <li>・昼食手作り弁当(11園)は、喜びや愛情を親子共に感じている家庭が多い。また、学校給食の園は、献立表や毎日の検食簿に書いてある栄養士(センター)の思いを知らせ、小・中学校と同じように食を学んでいる。</li> <li>・学校給食体験が実施でき、年ごとに回数も増えていて、保護者にも好評である。食育だけでなく、</li> </ul>



	<p>小学校への接続においても望ましい成果がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園で食の体験が増えたこともあり、アレルギー調査を年度初めに実施し、材料等を示し、衛生にも配慮した食の体験を行っている。</li> <li>・津山高校製作「どんな野菜ができるかな」の歌が少し広まり、各団体が行う食育が含まれるイベントのチラシを配布することで、出かける家族も増え、食について学ぶ機会が広がっている。</li> <li>・教育委員会の「早寝・早起き・朝ごはん」に取り組む中で、園は朝ご飯を食べるだけでなく、その質（メニューや家族と食べる朝ごはん）についても考え、示していくようになった。</li> <li>・12園全体で食に関するアンケートは実施していないが、それぞれの園での食育活動に対してアンケートを取っている園も多く、次年度の計画に反映されている。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの園の特徴ある取り組みを、今後一層充実させていく。</li> <li>・園だけでなく、他の団体等と一緒に取り組む食育活動を進める。</li> <li>・望ましい食事ができていない家庭への啓発指導。(バランスの良い食事や和やかな食事)</li> <li>・平成31年に新幼稚園が設立され、現12園の食育活動を、新しい幼稚園にどのような形で引き継ぎ、取り組んでいくか。</li> </ul>

### 明星幼稚園

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい食生活習慣を身につける。</li> <li>・友達や保育者や家族一緒に食べることを楽しむ。</li> <li>・栽培、収穫、買い物、調理、食事などの体験を通し、食の大切さ、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・食事のマナーやルールが身につけ、偏食が少なくなる。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各園の教育課程に食育を位置づけ、具体的な指導計画を立案し、実践する。</li> <li>・幼児の食生活、嗜好、習慣を把握する。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作体験(田植え、稲刈り、脱穀等)を通じて、食の大切さと感謝の気持ちを育むことができた。</li> <li>・畑づくり(種まき、苗植え、水やり、草とり等)を通じて野菜の苦手意識を払拭し、喜んで食べる姿も見られる様になった。</li> <li>・ランチルームまたは教室、時には屋外において友だちや保育者と一緒に食事をする事で、マナーやルールを身につけ、偏食が少なくなる様取り組んだ。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲作体験は、毎年長児が実施。参加人数は、年長組全員と教職員3~4名。</li> <li>・畑づくりのうち、季節の野菜の種まき、苗植え、草とり、収穫等は年長児が主となって実施。参加人数は年長児と教職員3~4名。</li> <li>・さつまいもの苗植え、芋掘りは、全園児と職員7~10名が参加。</li> <li>・昼食時(給食、弁当)、準備段階から片付けに至るまでの間、ルールやマナーを徐々に知らせ、友だちみんなと実行することにより身につけてきた。</li> <li>・食物の好き嫌いは、保護者が量を加減して少しずつでも克服できる様、援助している。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事業の実施状況を数値化して自己評価することが出来ていない為、今後の課題である。具体的な方法を模索し、実施していく必要がある。</li> <li>・取り組みの方向性は、従来通り。</li> </ul>

### 幼保連携型認定こども園 しらゆり幼稚園

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい食生活習慣を身につける。</li> <li>・友達や保育者や家族一緒に食べることを楽しむ。</li> <li>・栽培、収穫、買い物、調理、食事などの体験を通し、食の大切さ、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・食事のマナーやルールが身につけ、偏食が少なくなる。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各園の教育課程に食育を位置づけ、具体的な指導計画を立案し、実践する。</li> <li>・幼児の食生活、嗜好、習慣を把握する。</li> </ul>
5年間の実施状況	<p>食育計画実施状況</p> <p><b>年長</b> マナーを守り、楽しく食事をする。園の菜園でじゃが芋、さつま芋を植え、収穫する。園外では</p>

	<p>田植え、稲刈りを経験する。それらの経験を通して、食物の成長する喜び、収穫体験、協力してくださった方と園児全員で食事を楽しんだ。</p> <p><b>年中</b> 望ましい食習慣やマナーを身につける、感謝の気持ちを育てる、偏食を減らすなどに取り組んだ。</p> <p><b>年少</b> いろいろな食べ物に興味を持ち、感謝の気持ちを育てる。</p> <p><b>1歳児・2歳児</b> 保育者やともだちと楽しく食事をする。</p> <p>◎自園給食であることを活用し、目標をていねいに指導した。</p>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>「おいしく、バランスよく、感謝の気持ちをこめて」は建学の精神でもあるので、いろいろな場面で指導をしている。</p> <p>食育講座(試食会を兼ねる)</p> <p>平成29年6月14日(水) 49人出席</p> <p>平成29年6月16日(金) 25人出席</p> <p>テーマ「幼児期の食・給食のねらい」 講師:栄養士2名</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>◎「食」はからだをつくると共に「人」をつくるものである。本園は平成28年度より自園給食となっているので、教育・保育の場に「食育」を意識して指導することが増えた。園独自の取り組みは今後とも重要であるが、併せて国・県・市の「食育推進計画」を大いに参考にしていきたいと思っている。</p> <p>◎今、食をとりまく環境が大きく変化してきている。家庭の食生活に外部化・簡便化が進展してきている。幼児期の子どもたちに、家族団欒の食事の楽しさ、手作り料理、家庭の味をしっかりと経験させたい。保護者と共に、幼児期の食の大切さへの理解が深まるような取り組みを進めていきたい。</p>

## 美作大学附属幼稚園

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・望ましい食生活習慣を身につける。</li> <li>・友達や保育者や家族一緒に食べることを楽しむ。</li> <li>・栽培、収穫、買い物、調理、食事などの体験を通し、食の大切さ、感謝の気持ちを持つ。</li> <li>・食事のマナーやルールが身につく、偏食が少なくなる。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各園の教育課程に食育を位置づけ、具体的な指導計画を立案し、実践する。</li> <li>・幼児の食生活、嗜好、習慣を把握する。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食摂取や摂取品目の平均値の調査等を実施し結果や考察を保護者に返して意識向上に努めた。</li> <li>・園での昼食(弁当・給食)時と「3色たべたかな？」の取り組みをし、幼児の食への関心を高めるようにした。</li> <li>・大学との連携として大学生による様々な視点から食育指導を取り入れた。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「朝食の摂取品目と、起床から出発までの時間との関係」や「起床時刻の関係」「朝の排便率と起床時間の関係」など様々な視点から「幼児の体」について園と家庭とで考える機会を持つことができた。保護者からも他の家庭と比べることで気づくことが多いようだ。ここ3年間は全園児対象に実施した。</li> <li>・弁当や給食では少しでも食べようとする姿が増えているが、個人差が非常に大きく親子で課題の残る状況もある。</li> <li>・箸の持ち方や姿勢等には頑張る姿が増えている。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「健康生活調べ」などの実態調査を今後も取り入れ、全体での食育に生かしていきたい。</li> <li>・手作り弁当・パン給食・米飯給食、それぞれの良さを伝えながら、親子で食べることに取り組む意欲が育つようにしていきたい。</li> </ul>

## 津山市こども課

目指す姿	乳幼児が幅広い食の体験をし、食を楽しむ
取り組みの方向性	<p>○楽しく食べたり、食に関する体験の取り組みの推進。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所、幼稚園などに働きかけ、保育者や友達、保護者等と一緒に食べたり、体験の機会を持ち、楽しさを味わうことができるようにする。</li> </ul>

5年間の 実施状況	<p>○食育推進の啓発について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の健康的な食生活に必要な習慣や態度を身につける。</li> <li>・園児の豊かな実体験(栽培やクッキング)を実施。</li> <li>・機会をとらえて園と保護者との連携(試食会や献立レシピ配布)啓発。</li> <li>・支援センター利用保護者と乳幼児に啓発。(試食会や食育講座)</li> <li>・児童クラブ職員に対して食育研修や訪問を通して食育の意識を高める。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>○保育園・幼稚園・認定こども園に食育推進について啓発する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・訪問実施(毎年、5月～6月 保育園25園 幼稚園14園 認定こども園4園)</li> <li>・友だちや先生といろいろな食材を楽しく食べる体験を通して、良い食事のとり方を身につける。</li> <li>・各園にて作成している「食育の計画」に基づき楽しく実体験ができるよう啓発する。 (野菜栽培、収穫物を使っのクッキング、伝統行事に合わせた行事食を楽しむ等。)</li> <li>・園と家庭とが連携をとって食育の推進を行うよう啓発する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活リズムの見直し(早寝、早起き、朝ごはん、60・15運動等) ・共食(家族と一緒の食事)</li> <li>・毎食野菜を食べる・伝統食、行事食を取り入れる ・ゆっくり良く噛んで食べる。</li> <li>・食事のときの挨拶「いただきます」「ごちそうさま」をする 等</li> </ul> </li> </ul> <p>○支援センター利用保護者と乳幼児に食育推進について啓発する。(試食会や食育講座)</p> <p>○保健衛生に関する研修会を開催(食物アレルギーについて) 3回 312名</p> <p>○私立保育園での食育推進事業への補助金制度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育活動補助:園児、保護者への食育活動を実施。</li> </ul> <p>○アレルギー食等対応:給食でアレルギー児の除去食・代替食対応。(平成26年度より統一対応)</p> <p>○全児童クラブに対し、食育推進について等啓発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全児童クラブ訪問実施:年間通して随時 全28児童クラブ 児童クラブでのおやつ・イベント時の食事提供等について実態を把握、食育の啓発及びアレルギー児童等について実態を把握する。</li> <li>・研修会を開催 5回 参加人数 254名(平成25年度～29年度)</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>○就学前、就学後の育ちについて接続カリキュラム等を活用しながら、入学先と互いに情報と課題共有に取り組み連携をとっていく。</p> <p>○園児が園生活や給食を通して、自分の健康を守る良い食生活習慣を身につけるように、今後も指導していく。</p> <p>○保育園・認定こども園・幼稚園職員に対して、食育推進の研修を実施し、食育の重要性を再度意識し、園児・保護者への啓発と実践につながるようにさらに推進していく。</p> <p>○児童クラブ職員に対して、食育推進の研修会を実施し、食の重要性を認識しておやつ作り、おやつの提供等に活かしてもらおうと共に、保護者に「共食や野菜を食べる習慣づくり」を意識してもらえるように啓発していく。</p>

## 津山市小・中学校

目指す姿	健康に良い食事や生活のあり方を知り、実践していく。
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の栽培、調理、試食等の体験を通じて食材の旬を知り、おいしく食べようとする。</li> <li>・「命をいただく」ことに感謝し、残さず食べようとする。(残菜を減らす。)</li> <li>・系統的な食育指導を積み重ねていく。</li> </ul>
5年間の実施状況	<p>○次の7点に取り組んだ。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①正しい生活習慣を身につけるために生活調べ等をする。</li> <li>②全体計画に沿って、全体で取り組んでいく。</li> <li>③地域の産物、津山産野菜を資料(実物や図等)で紹介する。</li> <li>④朝食作りやおやつ作りを学級Pで取り組む。</li> <li>⑤栄養士・栄養教諭による指導回数を増やす。</li> <li>⑥野菜を育て、おいしく食べる方法を考え、調理して食す。</li> <li>⑦PTAと連携して家庭での調理体験を増やしていく。</li> </ol>

5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>○すべての学校で食育の全体計画を作成し、教科や学校行事、給食時間の指導など、教育活動全体を通して食育を行うことができた。給食週間を活用している学校も多い。</p> <p>○食育センターが発行する給食通信を活用し、旬の野菜や地域の産物、津山産野菜について給食放送や掲示板で知らせている学校がほとんどである。</p> <p>○すべての学校が何らかの形で栄養士・栄養教諭の食育指導を受けている。内容は「野菜の力」「朝ごはんの働き」「好き嫌いなく何でも食べよう」「食事のマナー」など。小学校では全学年で食育指導を受けている学校が約70%(H28)で、前年度(H27)より約10%増えている。</p> <p>○学級P活動として調理をしている学校は中学校では少ないが、小学校では約60%(H28)だった。PTA母親委員会の「朝食づくり講座」にほとんどの学校が親子で参加している。</p> <p>○津山市教育委員会保健給食課が作成する「夏休みレッツチャレンジクッキング」を夏休みの課題として活用し、家庭での調理体験を増やしている学校が多い。</p> <p>●取り組みはしているものの、小・中学生ともに残食があり(H28 小4.4% 中21.4%※市教委保健給食課調査結果より)、中学生の残食が増える傾向がある。栄養教諭や食育センター・市教委・PTAとの連携を強めて、食への意識・関心を高める必要がある。</p> <p>●各校の課題について、アンケート結果から、「偏食」「残食」「マナー」「朝ごはんを食べてこない」などを挙げる学校が多く、家庭との連携が今後も必要である。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>○今後も全体計画や年間計画に沿って、教科・総合・特別活動など教育活動全体で系統的に取り組んでいく。食に関する知識の習得と、野菜の栽培や調理などの体験を通して食の大切さを実感させたい。</p> <p>○児童・生徒の食についての知識や関心をさらに高めていく必要がある。専門的な知識をもった栄養士・栄養教諭との連携を大事にしながら食育を進めていく。各学級の実態をふまえた食育授業、家庭科でのチームティーチング、給食指導などで栄養教諭と連携していきたい。</p> <p>○保護者にも食への関心を高めてもらいたい。給食試食会などにおいて栄養士・栄養教諭から保護者に直接話をしてもらう機会を大切にしていきたい。</p> <p>○学校で学んだことを家庭でも実践することが大事である。家庭科の宿題や長期休業中の親子料理など、津山市教育委員会やPTAと連携して調理体験を増やしていくことが必要である。</p>

### 津山市教育委員会学校教育課

目指す姿	児童・生徒が食生活について学び、望ましい食習慣を身につけ、実践する。
取り組みの方向性	児童・生徒が食に関する知識や能力等を発達段階に応じて総合的に身につけることができるよう、「食に関する全体計画」をもとに、教育活動全体ですすめていく。
5年間の実施状況	<p>○全小・中学校で、「食に関する指導の全体計画」を策定し、職員会議等で共有している。</p> <p>○学校内の食育担当者と栄養教諭や学校栄養職員、栄養士との打ち合わせ会を開き、取組や授業の確認を行った。</p> <p>○津山市教育センター栄養部会で食育教材一覧表や食育授業の指導案を作成し実施している。</p> <p>○中学校では、家庭科の教員と連携し、「学校給食」を身近な食育教材として、授業を実施する機会が増えている。</p> <p>○小学校では、栄養教諭(学校栄養職員)や地域の方の力も借りながら、食育の授業を進めている。</p> <p>○平成28年度岡山県食育スクールプロジェクト事業で加茂中学校ブロック(加茂小・加茂中)をモデル校として、食に関するモデル授業や生活改善アンケートやがんばりカード等の取組を実施した。</p>
今後の課題	<p>■課題</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食育の授業や取組等で、学校ごとで取り組み方に差が出ないように、学校の担当者と栄養教諭(職員)が連携を引き続き図っていく必要がある。</li> <li>・全小・中学校が作成した「食に関する指導の全体計画」を、確実に実施していく。</li> <li>・全中学校で食育の授業実践ができるよう、栄養教諭(職員)と学校食育担当者が連携していく。</li> </ul>

## 津山市教育委員会保健給食課

目指す姿	児童・生徒が食と健康に関心を持ち、食事の重要性を理解し実践する。																		
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食の摂取、給食を残さず食べることについて普及、啓発推進</li> <li>・活力ある一日を送るための朝食、食事量や栄養バランスのとれた給食を毎日残さず食べることで、望ましい食習慣を身につける。</li> </ul>																		
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活アンケート(小学校5年生、中学校2年生対象)を行った。調査結果を基に、児童・生徒には望ましい食習慣を身につけるための指導を行い、保護者には、朝食を見直してもらえよう、調査結果を活用した資料を作成し、試食会等で啓発を行った。</li> <li>・学校給食では年間を通じて津山産、岡山産を優先して使用し、地場産物の活用を積極的に行った。</li> <li>・夏休み親子料理教室(小学校4年生～6年生の親子対象)を行った。調理技術や食に関する知識の普及に努めた。</li> <li>・夏休みレッツチャレンジクッキング(小学校5・6年生と中学校2年生対象)を行った。料理に興味を持ち、将来自分で料理ができる子どもたちの育成に努めた。また、応募作品を基にレシピを作成し小・中学校の児童・生徒に配布を行った。</li> <li>・学校給食残食調査(小学校3・4年生及び中学校2年生対象)を行った。学校給食を残さず食べるよう啓発資料を作成し小・中学校の児童・生徒に配布及び指導を行った。</li> <li>・朝食作り講座を生涯学習課と行い朝食摂取の重要性について働きかけた。</li> </ul>																		
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>・H28年度のアンケート等の結果では、子どもの朝食摂取や野菜摂取の指標で悪化しているものがあつた。</p> <table border="1"> <tr> <td><b>朝食摂取率(毎日)</b></td> <td>小学生</td> <td>87.6%(23年度)→80.1%(28年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学生</td> <td>84.1%(23年度)→72.4%(28年度)</td> </tr> <tr> <td><b>野菜摂取率(毎食)</b></td> <td>小学生</td> <td>29.3%(23年度)→24.0%(28年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学生</td> <td>25.0%(23年度)→28.3%(28年度)</td> </tr> <tr> <td><b>給食残食率(全体)</b></td> <td>小学生</td> <td>5.1%(23年度)→4.4%(28年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学生</td> <td>14.4%(23年度)→21.4%(28年度)</td> </tr> </table> <p><b>レッツチャレンジクッキング応募数</b> 1,826人(23年度)→2,179人(28年度)</p> <p><b>学校給食に地場産物を使用する割合(6月・11月)</b> 41.3%(23年度)→51.6%(28年度)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食摂取率や野菜摂取率、給食残食率の向上について、児童・生徒及び保護者の意識を変えるだけの取り組みが出来ていなかったと思われる。</li> <li>・地場産物は、野菜が中心のため天候に大きく影響されるが、使用率は増加している。</li> </ul>	<b>朝食摂取率(毎日)</b>	小学生	87.6%(23年度)→80.1%(28年度)		中学生	84.1%(23年度)→72.4%(28年度)	<b>野菜摂取率(毎食)</b>	小学生	29.3%(23年度)→24.0%(28年度)		中学生	25.0%(23年度)→28.3%(28年度)	<b>給食残食率(全体)</b>	小学生	5.1%(23年度)→4.4%(28年度)		中学生	14.4%(23年度)→21.4%(28年度)
<b>朝食摂取率(毎日)</b>	小学生	87.6%(23年度)→80.1%(28年度)																	
	中学生	84.1%(23年度)→72.4%(28年度)																	
<b>野菜摂取率(毎食)</b>	小学生	29.3%(23年度)→24.0%(28年度)																	
	中学生	25.0%(23年度)→28.3%(28年度)																	
<b>給食残食率(全体)</b>	小学生	5.1%(23年度)→4.4%(28年度)																	
	中学生	14.4%(23年度)→21.4%(28年度)																	
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒のみではなく、保護者、学校、地域を巻き込んで、食育を行っていく必要がある。</li> <li>・食育に関わる他部署との連携を深め、津山市全体の食生活の見直しを行う必要がある。</li> <li>・朝食摂取状況については、食べない理由として、「食べる時間がない」、「おなかがすいていない」が上位を占めているが、これらの理由は早寝早起きができていないことが原因と考えられる。今後も、早寝早起き、朝食摂取の重要性等を児童・生徒や保護者に啓発する必要がある。</li> <li>・給食の残食については、授業や給食時を活用した食に関する指導の中で、年齢に応じたエネルギー摂取量や栄養バランスなど食の重要性を知らせ、残食の減少を図っていく。中学生は牛乳の残量が特に多く対応が必要であるため、H29年度は牛乳残量調査を2回実施し、指導に活かしていく。</li> <li>・地場産物は一度に使用する量や種類を考慮して使用回数を増やすなど、献立を工夫する。また生産者や関係者と連携し生産量及び品目数の拡大を目指す必要がある。6月・11月の1週間を「おかやま地産地消週間」とすることで、地場産物の活用を意識させたい。また、授業や給食時の指導、啓発資料等で地場産物の良さや、津山市の食材をより知ってもらえるよう食に関する指導の工夫をしていく。</li> </ul>																		

## 津山食品衛生協会

目指す姿	食の安全・安心の確保のため、その基本である正しい手洗いを周知し、また、健康増進も図る。
取り組みの方向性	若年層を中心に、正しい手洗い方法を身につけてもらい、手洗いを習慣づけてもらう。
5年間の実施状況	<p>○毎年、手洗いチェッカーを使っての手洗い教室を開催。手洗い後の洗い残しの箇所を知ってもらい、正しい手洗いが出来るよう啓発指導を行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マルイウエストランドにて、買物客や二宮公民館サークルのメンバーを対象に手洗いチェッカーを実施。</li> <li>・二宮保育園の園児を対象に、手洗いの紙芝居を実施し、また手洗いチェッカーを使って、手洗いの勉強を実施。</li> <li>・東松原子供会の親子を対象に、岡山和気ヤクルト工場の見学と、津山東公民館にて手洗いチェッカーを使い、手洗い教室を開催。</li> <li>・パネルやパームスタンプを活用し、手洗いの大切さを周知した。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手洗いは食中毒予防の基本であるため、食育が重要視される以前から協会事業で常に啓発を行ってきた。手洗いが大切であることは誰もが知っており、事業を実施することで手洗いの大切さを再確認してもらっているが、さらに、正しい手洗いをしなければ汚れが落ちにくいということ、手洗いチェッカーで洗い残しの箇所をチェックしてもらうことで、知ってもらうことができている。ただ、不特定多数に対して事業を行うことがほとんどであるため、その後の成果についての検証は行っていない。</li> <li>・若年層を対象に事業の実施を計画してきたが、中高年の参加が多かった。ただ、参加者の中には驚くほど上手に手洗いができる児童・生徒もおり、理由をきいたところ、学校で勉強したとのことで、教育の重要性や、こういった事業を継続して行っていくことが大切だと感じている。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	事業を実施する食品衛生指導員の人数が減少してきており、充実した事業の継続が難しくなりつつあるが、当協会としては、食中毒予防の観点から、今後も手洗いチェッカーなどを活用しながら、正しい手洗いを行うよう一人でも多くの人に呼びかけていく。

## 津山農業協同組合

目指す姿	・食への関心・興味を高め、食の大切さ、食を支える農の役割、地域の食文化などの理解を深める。
取り組みの方向性	・地元産農畜産物の利用拡大 地元産農畜産物を利用した料理講習会等催し物と広報活動を実施し、地元産農畜産物の本来の良さとおいしさをアピールするとともに、栄養バランスのとれた食生活の推進を図る。
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「笑味ちゃん天気予報」での地元農畜産物のPR</li> <li>・女性部主催によるクッキング・フェスタ(試食会)での地元食材の利用と食の大切さの講演会</li> <li>・ちゃぐりんフェスタ(親子料理教室)での地元食材の利用と食に関するクイズ等</li> <li>・直売所の出荷物に料理レシピを付ける。</li> <li>・JA広報誌(シャイン)へ津山東高校と連携して地元食材を使った美味しい料理レシピを掲載</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農畜産物の、ほ場の視察と生産者の話、採れたての食材を使って料理をし美味しさをアピールする。視聴率も高く好評です。</li> <li>・クッキング・フェスタ: H26・27年:参加者203人 スタッフ30名 作ったことないメニューもあり、とても美味しかったので作ってみたいとの意見が多かった。</li> <li>・ミニクッキングフェスタ:(3地区でそれぞれ開催) H25年:参加者 東部地区 89名 西部地区 45名 南部地区 93名 スタッフ 約 15名 H28年:参加者 東部地区 90名 西部地区 64名 南部地区 106名 スタッフ約 15名 会場によって、参加者の募集人数が変わりますが、毎年多くの方が参加していただき評価も良く地産地消、地元食材のPRにつながっていると思います。</li> <li>また、若い年齢層の方に安心安全な食材に関心をもってもらえるようになった。</li> <li>・料理教室の実施は毎年ではありませんが、子ども達への食農教育は、ちゃぐりんフェスタとして毎年いろいろな形で開催し、体験・クイズ・食べることを通して農畜産業、食の大切さを学んでいる。</li> </ul>

今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・募集方法の検討</li> <li>・若い年齢層の方に多く参加してもらうための方法</li> <li>・地域住民が、安心安全な食生活を送るために必要なことを、多くの人が楽しく学ぶことができる企画を考え、農協として提供できる知識を伝える。</li> </ul>
-----------------	--

### おokayama酪農業協同組合

目指す姿	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ミルクジャパン運動</li> <li>スローガン:「牛乳が日本を元気にする」</li> <li>牛乳・乳製品の摂取により、子どもたちがすくすく育ってほしい。子育てをする保護者を応援し、子ども、地域、日本を元気に。</li> </ul>
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・牛乳・乳製品へ関心を持ってもらい、酪農を知ってもらう。</li> <li>牛乳・乳製品消費が減少する中高大学生(女子)へ牛乳・乳製品の重要性を知ってもらう。</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休みを利用した県下小中学生より牛乳・酪農をテーマにした絵画の募集</li> <li>・夏休みを利用した県下の高校生・大学生並びに一般を対象にした牛乳・乳製品利用料理コンクールの募集</li> <li>・中学校での骨密度測定 希望校には食育サポート</li> <li>・高校等の文化祭等での骨密度測定並びに栄養相談</li> <li>・小学校に出向きバターづくり等をし、地域の酪農・牛乳への理解をしてもらう</li> <li>・美味しく減塩『乳和食』の料理講習会</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵画コンクール・料理コンクールとも応募者数が減ってきている。 絵画コンクール 25年度 6,930点 29年度 5,609点 料理コンクール 25年度 557点 29年度 479点 夏休みには他のコンクール等の種類も多く選択されてきているのではないかと思う。</li> <li>・中学生での骨密度測定は市内では加茂中学校のみで実施(食育サポート含む)。 県南では骨密度測定の結果をもとに食育の事業を行っている。 牛乳の飲み残しが減ったとも聞いている。</li> <li>・秀実小学校では、地域の方と学年ごとに行事を行っている。毎年2年生がバター作りをしている。また、学区の酪農家が2軒になってしまったことや牛や牛乳のことなど話をする。地域の酪農家が仔牛を校庭に連れてきて触れ合っている。</li> <li>・牛乳・乳製品を使った『乳和食』料理講習会は毎回好評。年2~3回程度実施。短時間で少ない材料でできるので、今後も進めていきたい。また、酪農女性部と一緒に行うことで酪農への理解も深める。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳までに骨密度の値をピークにする必要があること、また高校生になると給食がなくなり牛乳を飲む機会が減ってくることを経費削減を求められているが骨密度測定等を利用して中高大生(特に女子)へ牛乳・乳製品の大切さを伝えたい。</li> <li>・牛乳を飲むだけでなく牛乳・乳製品を料理へ利用してもらうはたらきかけを行う。</li> </ul>

### 津山市農村生活交流グループ

目指す姿	地域の農産物を活用した商品開発とレシピの普及
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等の資源の把握</li> <li>・加工技術の習得</li> <li>・郷土料理、伝統料理等の把握</li> <li>・健康料理の研究</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市農商工連携推進計画に基づく地域資源に係る情報収集、把握した情報の集約と活用方法の検討への協力</li> <li>・加工技術習得のための研修会等への参加</li> <li>・地域農産物を活用した商品開発への取り組み</li> <li>・郷土料理、伝統料理等の伝承活動への協力</li> <li>・若い世代を対象とした伝統食(味噌)を活用した料理教室等の開催</li> </ul>

5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>①津山市農商工連携推進団体による会議体「つやまFネット」主催の各種会議(平成25～28年度:43回)・イベント(平成25～28年度:5回)に参加し、地域資源に関する情報提供、活用方法の検討協議、情報発信等、津山市農商工連携推進計画の推進に貢献した。</p> <p>②調理技術習得セミナー及び農産品加工技術習得セミナー(平成25～26年度:49回)ほか各種研修会等に参加するなど加工技術の習得・向上を図るとともに、津山しょうがドレッシング(津山商業高校及び津山工業高校と協力)、ニンニクドレッシング及びニンニク醤油、アレルギー対応(卵なし)米粉菓子など、地域農産物を活用した商品開発に取り組んだ。</p> <p>③日本調理科学会(県北地域監修担当:美作大学)による郷土料理聞き取り調査への協力(平成25年度:2回)、津山市の民間情報サイト「津山瓦版」への雑煮情報の提供(平成27年度)等、他団体が行う郷土料理伝承活動に協力した。伝承活動は当協議会の自主活動のみでは限界があり、広く継承していくためにも積極的に他団体の活動に協力し、様々な媒体を活用した情報発信をしていく必要がある。</p> <p>④平成28年度から小学生親子や若手女子農業者など若い世代を対象とした伝統加工食品(味噌)や地域農産物活用加工商品を活用した料理教室等(平成28年度:3回)を始めたが、子育て世代の地域農産物加工品に対する関心は強いもののその認知度が低く、情報発信活動に引き続き力を入れていく必要がある。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>・郷土料理や地域農産物を活用した商品に対する子育て世代の関心は高いものの、その認知度は低く、どのように継承していくか、情報発信していくかが課題となっている。味噌などの伝統加工商品の製造、消費者のニーズを取り入れた地域農産物活用新商品の開発などに引き続き取り組んでいくとともに、平成28年度から始めた親子料理教室など自主活動による若い世代との交流、他団体の郷土料理伝承活動への協力等を積極的に行い、食(よいもの)を選択する力の育成と選択してもらえる食(よいもの)の開発・情報発信に取り組んでいきたい。</p>

## 津山市みらい産業課

目指す姿	地域の農産物を活用した商品開発とレシピの普及
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農産物等の資源の把握</li> <li>・加工技術の習得</li> <li>・郷土料理、伝統料理等の把握</li> <li>・健康料理の研究</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市農商工連携推進計画に基づく地域資源に係る情報収集、把握した情報の集約と活用方法の検討</li> <li>・高校生等の若い世代を巻き込んだ地域農産物活用新商品の開発・改良</li> <li>・協働による地産地消イベントの実施</li> <li>・学校給食における地産地消の推進</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>①津山市農商工連携推進団体による会議体「つやまFネット」主催の各種会議(平成25～28年度:43回)・イベント(平成25～28年度:5回)を主催し、地域資源に関する情報収集、活用方法の検討、情報発信等を推進した。</p> <p>②ショウガを活用したドレッシングや餅菓子、小麦を活用した肉まんなど、市内高校生の参画による地域農産物を活用した商品開発の取り組みを行った。次世代を担う高校生に地域農産物やその加工品について興味・関心を深めてもらうきっかけとなっている。</p> <p>③市内高校との協力による小麦まつり・ショウガまつりの開催(平成25～28年度:4回)、消費者参加型の地域農産物を活用したレシピコンテストの開催(平成26～28年度:3回)、民間事業者と市内高校との協力によるショウガ作付・収穫体験の実施及びレシピコンテストの開催(平成25～28年度:4回)など、協働型地産地消イベントを開催し、地域農産物やその加工品の情報発信活動を行った。様々な団体と協力して実施することにより、主催者側・来場者側双方から幅広い世代を巻き込んだ地産地消推進イベントとして効果を生んでいる。</p> <p>④ピオーネゼリー、新高梨シロップ漬けなど学校給食向け地域農産物活用加工商品等の開発と提供支援、学校給食用麺(中華・ソフト)原材料小麦を津山産小麦に切り替えるための補助事業等</p>



	を実施(平成27年度:10回(麺、加工商品含む。)、平成28年度:麺12回、加工商品2品)し、学校給食における地産地消の推進を図った。
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地産地消イベントや地域農産物活用商品の開発に高校生等学生に参画してもらうことは、地域農産物やその加工品についての関心向上や食を選択する力の育成に貢献するとともに、郷土愛の醸成といったことにもつながるため、今後も継続していきたい。</li> <li>・学校給食における地産地消は、食育推進には欠かせない課題であるが、取組事業者にとって地域貢献性などやりがい大きい反面、様々なリスクも伴うため、いかに継続させていくが課題の1つとなっている。学校給食のニーズを踏まえた新商品の開発とともに、取組事業者に関する積極的な情報発信、行政の補助や支援なしに提供が安定的に継続できるような仕組みづくりに取組んでいきたい。</li> </ul>

## 岡山県美作県民局 美作広域農業普及指導センター

目指す姿	地域力を生かした6次産業化、農商工連携の推進
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・女性や高齢者等多様な担い手の知恵や経験を生かし、地域資源を活用した「6次産業化」への取り組みや、学校給食への食材供給、食農体験交流などの支援</li> <li>・地域農業と商工業等の「農商工連携」の強化や、農業者と消費者との相互理解促進、地産地消運動の推進など、地域農業の活性化支援</li> </ul>
5年間の実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域資源を活用した「6次産業化」への取り組みを重点的に支援した。</li> <li>・6次産業化をめざす農業者や起業グループに取り組みを啓発した。</li> <li>・地域資源を活用した新商品の開発及びブラッシュアップを支援した。</li> <li>・食品表示や販売促進等の研修会を行い、商談会への誘導を図った。</li> <li>○学校給食への食材供給、食農体験交流などの支援を行った。</li> <li>○「農商工連携」の強化や、農業者と消費者との相互理解を促した。</li> <li>○地産地消運動、食育の推進</li> <li>・生活交流グループ等各種団体の、地域食材の利活用や料理伝承活動を支援した。</li> <li>・各種イベントや地域での講習会で、地域食材のPRと地産地消、食育普及を行った。</li> </ul>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2事業者が国から総合化事業計画を認定され、新商品の開発・販売に取り組んだ。 <ul style="list-style-type: none"> <li>① ブラウンスイス牛の自家生乳を原料としたチーズの製造販売 :チーズ4種</li> <li>② 自社生産の柿を活用した新商品開発・販売 :あんぼ柿、柿ヨーグルトドレッシング</li> </ul> </li> <li>・地域資源を活用して、新たに地域特産品の商品化が図られた。 <ul style="list-style-type: none"> <li>(平成26年度以降に販売を開始した商品 :ショウガドレッシング、梨シロップ漬等)</li> </ul> </li> <li>・専門家による食品表示チェックを受けて、表示の適正化に4組織12品が取り組んだ。</li> <li>・平成28年度に認定農業者等に6次産業化に関する意向調査を実施し、要望に基づき情報提供や研修を実施した。(容器・包装資材、衛生管理、6次産業化の支援策、販売促進等)</li> <li>・岡山市内の実需者と農業者との交流会を開催し、産地見学や意見交換を行った。</li> <li>・清泉小学校での「田んぼの生き物」講義の講師を25年間継続している。</li> <li>・津山地方農業青年クラブ協議会主催の食農体験交流を支援し、美作大学生など若い世代への地域食材への理解を促すことができた。</li> </ul>
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域資源を活用した新商品の開発をめざす農業者や起業グループの6次産業化への取り組みを重点的に支援する。</li> <li>・28年度の意向調査結果を整理し、要望に応じた研修会開催などの支援につなげる。</li> <li>・6次産業化商品の開発にあたっては、適正な食品表示やパッケージデザイン、価格設定など、専門家の指導を受けられるよう支援の充実を図る。</li> <li>・学校給食への食材提供、子どもや若い世代への食農体験交流の活動支援を続けることで、農業や農村文化への一層の理解を促していく。</li> <li>・6次産業化及び農商工連携に係る関係機関、団体、行政の連携体制を強化する。</li> <li>・農業者と消費者との交流、地産地消運動の推進などを充実させることで、地域農業の活性化をすすめていく。</li> </ul>

## 津山市農業振興課

<p>目指す姿</p>	<p>農業体験を通じて、食を大切にし、感謝の気持ちを深める。地産地消の推進によって、地域の産物、食文化を理解し尊重する。</p>																										
<p>取り組みの方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業体験の取り組みを推進</li> <li>幅広い世代の市民に農業体験の場を提供し、食及び生産者への興味・関心・理解を高めていく。</li> <li>・地産地消の推進(小麦・つやま和牛・農産物直売所)</li> <li>地場産農産物の広報を充実させていく。(ぶどう祭り)</li> </ul>																										
<p>5年間の実施状況</p>	<p><b>農業体験の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内各小学校において、主に5年生を対象とした、田植え、稲刈り等の農業体験を実施している。その内、5校について、同体験時に農業振興課職員の派遣及び用具(鎌)の貸し出しを行っている。</li> </ul> <p><b>市民への農業体験の場の提供</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成15年から市内大田に市民農園を設置、広く市民の農業体験の場として提供してきた。現在、その運営は、利用者による実行委員会が行っており、市農業振興課がその事務局業務を行っている。</li> </ul> <p><b>地産地消の推進</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・津山産農産物の販売所として、市内3カ所に農産物直売所を設定している。特に、平成27年度には久米地域の直売所、道の駅・久米の里のリニューアル工事、また、勝北地域の直売所、ほほえみ彩菜を「勝北マルシェ・ほほえみ彩菜」として改築工事を行い、利用者の利便性向上と販売力向上を図っている。</li> <li>・小麦やショウガなどの戦略作物や地域振興作物の生産振興と生産性向上を支援するため、産地交付金を交付している。また、小麦については、関係機関で構成する販売戦略会議に参画し、生産・販売を推進している。</li> <li>・平成28年4月からつやま和牛の出荷が開始され、市内精肉店及び焼肉店での販売、提供が始まった。</li> </ul> <p><b>地場産農産物の広報の充実</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小麦等の生産振興と消費拡大を推進するため、小麦まつりに関係部署と共に出店し、広報、周知活動に努めた。</li> <li>・つやま和牛及び精肉の消費拡大を推進するため、関連部署と協力し、市内では、津山さくらまつりでの、牛もも肉の丸焼きの提供や、牛うまつ王選手権(平成28年より5月)への出店、市外では、岡山マラソンへのPRブースを開設し、周知活動に努めた。</li> <li>・津山産ぶどうの生産振興と消費拡大を推進するため、ぶどう祭り(毎年9月)をJA つやま津山ぶどう部会と共催している。</li> </ul>																										
<p>5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価</p>	<p><b>農業体験の取り組み</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市内小学校の内、5小学校による田植え、稲刈り体験状況</li> </ul> <table border="1" data-bbox="392 1469 1015 1720"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>田植え</th> <th>稲刈り</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>平成29年度</td> <td>449人</td> <td>448人</td> <td>897人</td> </tr> <tr> <td>平成28年度</td> <td>497人</td> <td>496人</td> <td>993人</td> </tr> <tr> <td>平成27年度</td> <td>412人</td> <td>476人</td> <td>888人</td> </tr> <tr> <td>平成26年度</td> <td>483人</td> <td>484人</td> <td>967人</td> </tr> <tr> <td>平成25年度</td> <td>465人</td> <td>485人</td> <td>950人</td> </tr> </tbody> </table> <p>少子化により、対象となる児童数は減少傾向であるが、引き続き、農業体験を行うことで、日本の農業や食品への関心が持てる機会となっている。</p> <p><b>市民への農業体験の場の提供</b></p> <p>平成15年度に事業を開始したが、当初は団塊の世代の大量退職等により、市民農園ブームとなり、全37区画に対し、借受希望者が空き区画を待つ状態であった。しかしながら、近年、空き区画が発生することもあり、市広報紙、新聞等、広報媒体を活用し、利用者募集を行っている。市としては、実行委員会形式の事業ではあるが、農地を持たない市民に対する貴重な農業体験の場であると考えており、市民への周知、募集活動に力を入れたいと考えている。</p> <p><b>地産地消の推進</b></p>			年度	田植え	稲刈り	合計	平成29年度	449人	448人	897人	平成28年度	497人	496人	993人	平成27年度	412人	476人	888人	平成26年度	483人	484人	967人	平成25年度	465人	485人	950人
年度	田植え	稲刈り	合計																								
平成29年度	449人	448人	897人																								
平成28年度	497人	496人	993人																								
平成27年度	412人	476人	888人																								
平成26年度	483人	484人	967人																								
平成25年度	465人	485人	950人																								

	市が市内に設置している農産物販売所は、退職帰農者など、中・小規模な農業者の農産物出荷の場として、地産地消を通じて、地域の食育の場となっていると考える。また、小麦やショウガなど地域振興作物等の生産振興などを通じて、地産部門である生産者数の拡大と生産性の向上を図っていきたい。
今後の課題及び取り組みの方向性	今後の課題として、地産地消を推進する上で推進作物の規模拡大と農業者の確保が課題となっている。関係農業機関とも協力の上、作付面積の拡大と作付農家の確保を行っていく。 また、農業体験の場の提供については、広報に努め、利用者の確保と啓発を行っていく。

## 岡山県美作保健所

目指す姿	1 食を通じた健康な人づくり・地域づくり 2 管内全ての市町において食育推進計画の策定
取り組みの方向性	「岡山県食の安全・食育推進計画」に基づき、健康で豊かな心身をはぐくむために、管内栄養改善協議会や地域の食育関係者等と連携した食育活動を推進する。
5年間の実施状況	1 食を通じた健康な人づくり・地域づくりを行った。 (1)管内栄養改善協議会、栄養士会、学校と連携して、減塩、朝食や野菜摂取向上の食育活動を行い、生活習慣病の発症予防等若い世代の健康づくりに務めた。 ① 朝食毎日きちんと食べよう大作戦(栄養改善協議会) ② 高校生への食育事業「満足一人ご飯の講座」(栄養改善協議会) ③ 中学生への食育教室(栄養士会) ④ クリアファイル「野菜でピッカピッカ元気」の作成(栄養改善協議会) (2)栄養士会津山支部と連携して、住民が自分の健康状態に合わせた食事メニューを選択できるよう「栄養成分表示の店登録事業」を進めた。 (3)栄養委員・給食施設従事者・栄養士等に研修会を実施し、人材育成に努めた。 2 管内全市町の食育推進計画策定及び推進への支援を行った。
5年間の実施状況に対する団体としての自己評価	1 平成28年県民健康調査・子どもの食事アンケート結果によると、食塩摂取は改善したものの、朝食や野菜摂取の指標は改善していなかった。 ○朝食毎日食べる者 県 小学生 94.3%(H23)→91.7%(H28) 管内 小学生 94.9%(H23)→85.8%(H28) 県 中学生 89.2%(H23)→85.3%(H28) ○野菜摂取量 県 男性 286.9g(H23)→263.8g(H28) 女性 279.2g(H23)→244.5g(H28) ※ 全年代で H23 より減少しており、特に若い世代の摂取量が低い。 ○食塩摂取量 県 男性 10.6g(H23)→ 9.4g(H28) 女性 9.9g(H23)→ 8.6g(H28) 2 関係団体・学校との連携も進み、継続した食育活動が実施できたが一部の人に限られ、地域全体へのアプローチは不十分であった。 3 「栄養成分表示の店登録事業」については、飲食店や住民への周知不足や、新規開拓とアフターフォローのためのマンパワーも不足しており、店舗数は伸び悩んでいる。また、廃店・中止した施設もあり、管内では、減少している。 県 店舗数 1,055 施設(H23)→1,106 施設(H28) 管内 店舗数 89 施設(H23)→ 76 施設(H28) 4 管内全市町で食育推進計画が策定出来、市町の食育活動の支援を行った。
今後の課題及び取り組みの方向性	1 平成29年度は、「岡山県食の安全・食育推進計画」の評価年であり、これまでの食育の取り組みを評価し、食を通して健康に人を育むことができるよう次期計画につなげる。 2 食生活の課題の要因を探り、ターゲット層を絞って、各市町や学校・関係団体と連携して、「健康的な食生活を実践出来る人」を育てる活動を行う。 3 外食・中食への依存度が高くなるなかで、飲食店・栄養士会等と連携して「健康な食事」を提供できる食の環境をさらに整えていく必要がある。

## 津山市環境生活課

目指す姿	市民が、食の安全確保のために必要な知識を得る。
取り組みの方向性	食の安全確保のための普及、啓発推進。
5年間の実施状況	<p>○食の安全啓発パネル展示 「消費者月間(5月)」に食の安全に係る啓発パネル展を行った。 平成28年度からは「安心安全まちづくり旬間(10月4日～10月14日)」にも食の安全に関する図書の紹介を行うとともに、司書の協力を得て来館者に本の貸し出しを行った。 中央公民館文化祭において、消費生活センターのコーナーを設置する中で、食育推進計画などの広報を行った。</p> <p>○食の安全に関する相談への対応 毎年、消費生活センターに食に関する相談が数件あり、スーパー等へ改善申入れなどの内容を伝え、対応を行った。</p>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>○食の安全啓発パネル展示 ・消費者月間 5回 ・安全安心まちづくり旬間 2回 ・中央公民館文化祭 2回 年間に行うパネル展示を増やしており、引き続き食の安全啓発に力を入れていく。</p> <p>○食の安全に関する相談への対応 ・消費生活相談の中で随時対応。 毎年、食に関する相談が数件あり、消費生活相談員を中心に対応を行っており、引き続き、相談体制を維持し、市民の食の安全に係る不安を払拭するよう努める。</p>
今後の課題及び取り組みの方向性	<p>引き続き、パネル展示などにより、市民の方々に「食の安全」「食品ロス」等についての知識を身に付けてもらえるように、啓発を行う。</p> <p>また、消費生活相談の中でも、随時対応行い、食に対する不安を払拭する。</p>

## 津山市教育委員会生涯学習課

目指す姿	正しい食生活の必要性を理解し、家族そろって楽しく食事をする。
取り組みの方向性	<p>・食の重要性を啓発し、調理体験の機会提供推進 生涯学習事業を通じ、健全な食生活を啓発し、食の体験を深める。</p>
5年間の実施状況	<p>「早寝早起き朝ごはん」といった基本的な生活習慣の定着を図り、健全な食生活を啓発するために、食育講座の開催や調理体験の機会を提供した。</p> <p>・食について学ぶ講座を開催し、地域の農産物や加工品について理解を深めた。 ・公民館や鶴山塾、生涯学習講座などで調理体験の機会を提供し、食事の重要性について啓発した。</p>
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<p>・食について学ぶ講座については、参加者から「子どもに食育ができ、日本食の大切さがわかった。」「地元産の食材のことがよくわかった。」「積極的に地元産の食材を使用したい。」等の感想が寄せられた。地域の農産物や加工品についての理解が深められ、食事の重要性について啓発することができた。</p> <p>・生涯学習講座での調理体験の機会提供については、参加者から「簡単に作れる手軽さが良かった。家でも作ってみたい。」「親子で食について考えながら、楽しく料理をすることができた。」「保存できるので、朝ごはんに活用したい。」等の感想が寄せられ、健全な食生活の定着が図られた。</p> <p>・公民館講座で、男性の料理教室や親子ふれあい料理教室、伝統食の継承講座などを開催することにより、市内各地域で子どもたちから高齢者に至るまで食生活の重要性を認識し、理解を深めていただくことができた。</p> <p>・つやま子ども野外塾のサマーキャンプなどを通して、野外において食材を残さず使う工夫や調理の仕方などを体験を通じて学ぶことができた。</p> <p>・鶴山塾では、自分たちで野菜を栽培し、それらを食材とした昼食づくり(週4日)を実施することに</p>

	より、健全な食生活を体験することができた。			
	○食育に関する講座数			
	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	
	生涯学習講座	4	2	5
	公民館講座	27	19	25
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・食生活や食習慣の改善は、啓発によって直ちに効果が表れるものではないことから、引き続き、生涯学習講座や公民館講座の取り組みの中に、体験を通じた食育を取り入れていきたい。</li> <li>・各講座において新たな参加者を募るなどの努力をして、正しい食生活の認識を広めていく必要がある。</li> </ul>			

## 津山市 健康増進課

目指す姿	市民が食と健康に関心を持ち、健全な食生活を実践し、健康の保持増進を図る。															
取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜摂取の重要性について普及、啓発推進。野菜摂取回数の少ない 20～50 歳代男性、20 歳代女性へ、野菜をしっかりと食べることは健康の維持・増進、生活習慣病予防につながることを普及、啓発する。</li> <li>・朝食摂取率が低い 20・30 歳代の若い世代へ健康的な生活習慣の確立のためには、朝食を含む 1 日 3 回の規則正しい食事が必要であることを普及、啓発する。</li> </ul>															
5年間の実施状況	<p>○朝食摂取や野菜摂取に関する啓発を重点的に実施した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報活動(広報紙、ホームページ、ポスター等)、イベントの継続実施及び拡大により、様々な場面で広く啓発を行った。</li> <li>・妊婦学級、乳幼児健診、離乳食教室、食育教室等では、子どもや若い世代の朝食摂取や野菜摂取につながるよう、献立や配布物等を工夫した。</li> <li>・愛育委員・栄養委員、保育園・幼稚園等との連携を強化し、新たに高校、大学、野菜直売所等と連携して取り組んだ。</li> </ul>															
5年間の実施状況に対する、団体としての自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・28 年度のアンケート結果では、子どもや若い世代の朝食摂取や野菜摂取などの指標で悪化しているものがあった。</li> </ul> <table border="0"> <tr> <td><b>朝食摂取率(毎日)</b></td> <td>小学生</td> <td>87.6%(23 年度)→80.1%(28 年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>中学生</td> <td>84.1%(23 年度)→72.4%(28 年度)</td> </tr> <tr> <td><b>野菜摂取率(毎食)</b></td> <td>3 歳児</td> <td>23.0%(23 年度)→19.7%(28 年度)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>小学生</td> <td>29.3%(23 年度)→24.0%(28 年度)</td> </tr> <tr> <td><b>主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数</b></td> <td>20 歳以上</td> <td>14.5 回(23 年度)→13.7 回(28 年度)</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>・課題やその要因を深く掘り下げるのが不十分で、そこに焦点を合わせた対応ができていなかったことが考えられる。</li> <li>・年度毎に広報活動や事業の実施回数等の目標を設定し、様々な啓発を行い、取り組みの回数は増加した。しかし、取り組みの結果、市民の意識や行動に変化があったかどうかの把握ができていない。</li> </ul> <p><b>【5年間の事業実施状況は次ページ】</b></p>	<b>朝食摂取率(毎日)</b>	小学生	87.6%(23 年度)→80.1%(28 年度)		中学生	84.1%(23 年度)→72.4%(28 年度)	<b>野菜摂取率(毎食)</b>	3 歳児	23.0%(23 年度)→19.7%(28 年度)		小学生	29.3%(23 年度)→24.0%(28 年度)	<b>主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数</b>	20 歳以上	14.5 回(23 年度)→13.7 回(28 年度)
<b>朝食摂取率(毎日)</b>	小学生	87.6%(23 年度)→80.1%(28 年度)														
	中学生	84.1%(23 年度)→72.4%(28 年度)														
<b>野菜摂取率(毎食)</b>	3 歳児	23.0%(23 年度)→19.7%(28 年度)														
	小学生	29.3%(23 年度)→24.0%(28 年度)														
<b>主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数</b>	20 歳以上	14.5 回(23 年度)→13.7 回(28 年度)														
今後の課題及び取り組みの方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H34(2022)年度の最終評価に向け、子どもや若い世代への取り組みをさらに充実させる必要がある。</li> <li>・食育に関わる関係機関・団体、行政の連携体制を強化する。28 年度の調査結果から課題やその要因を明確にし、共通の目標として重点的に取り組んでもらえるよう各団体に働きかける。</li> <li>・朝食摂取状況については、休日は朝食を食べない児童・生徒が増えており、休日の就寝時刻、起床時刻が遅いためと考えられる。</li> <li>・野菜の摂取回数不足は、朝食での摂取が難しく、時間がないこと(野菜料理を作る時間、食べる時間の両方)が原因の一つと考えられる。</li> <li>・子どもや若い世代への関わり場を増やすと共に、どのような機会や啓発方法がそれぞれの年代や集団に効果的なのか十分検討し、実践につながる具体的な啓発をより多くの市民に行う必要がある。</li> </ul>															

事業名	事業内容	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
妊婦学級	調理実習、講話	4 回 33 名	4 回 41 名	4 回 33 名	4 回 44 名	4 回 35 名
乳児健診時栄養指導(3～4 か月児)	離乳食試食、講話	24 回 836 名	24 回 839 名	24 回 838 名	24 回 810 名	24 回 (予定)
子育て教室時栄養指導(第1子・6 か月児)	離乳食に関する相談	10 回 43 名	12 回 66 名	12 回 76 名	12 回 67 名	12 回 (予定)
離乳食教室	調理実習、講話	10 回 95 組	10 回 97 組	10 回 85 組	10 回 83 組	10 回 74 組
育児相談(すこやか・こどもセンター・各支所)	離乳食・幼児食に関する相談	57 回 153 名	74 回 153 名	74 回 182 名	73 回 185 名	予定あり
電話、窓口等での相談(妊産婦、乳幼児)	妊産婦の食事、離乳食・幼児食に関する相談	22 名	30 名	59 名	40 名	予定あり
1 歳 6 か月児健診時栄養指導	幼児食に関する相談	30 回 90 名	30 回 366 名	30 回 320 名	30 回 304 名	30 回 (予定)
3 歳児健診時栄養指導	幼児食に関する相談	30 回 383 名	30 回 391 名	30 回 275 名	30 回 258 名	30 回 (予定)
親子クラブでの健康教育	調理実習、講話 (保護者対象)	1 回 29 名	1 回 39 名	1 回 32 名	2 回 39 名	3 回 (予定)
保育園での健康教育	体験学習、講話 (保護者対象)		1 回 12 名	1 回 11 名	1 回 16 名	1 回 22 名
児童館での健康教育	調理実習、講話 (子ども対象)			2 回 43 名	2 回 44 名	2 回 58 名
小学校学級P、他団体実施 親子料理教室等への協力	調理実習、講話 (主に小学生の親子対象)		1 回 44 名	1 回 32 名	2 回 88 名	3 回 155 名
高校文化祭健康コーナー(健康つやま 21 として出展)	体験学習	1 回 50 名	1 回 86 名			1 回 63 名
高校生の食育教室 ～食と健康のワークショップ～	体験学習、講話(美作大学 に講師依頼の回もあり)			3 クラス 119 名	8 クラス 305 名	9 クラス 352 名
市職員健診後事後指導	体験学習、栄養指導	2 回 14 名	2 回 25 名	2 回 24 名	3 回 29 名	2 回 10 名
津山市栄養教室 (栄養委員対象)	講演、調理実習、体験学習 (1 コース 7 回)	1 コース 43 名	1 コース 43 名	1 コース 45 名	1 コース 43 名	1 コース 42 名
市集団健診時健康教育 (成人、高齢者対象)	体験学習等 (減塩、野菜摂取啓発)	8 回 174 名	18 回 309 名	25 回 501 名	35 回 706 名	37 回 567 名
特定保健指導(40～74 歳 健診受診者のうち、生活習慣病発症のリスクが高い方)	個別指導、集団指導	66 名	57 名	56 名	86 名	予定あり
糖尿病教室／ヘルスアップ 教室	体験学習、講話	3 回 延べ 34 名	3 回 延べ 32 名	3 回 延べ 71 名	4 回 92 名	4 回 (予定)
出前健康教育 (成人、高齢者対象)	講話等	8 回 139 名	9 回 196 名	3 回 70 名	1 回 45 名	予定あり
電話、窓口等での相談(成人、高齢期)	食生活相談	23 名	21 名	21 名	26 名	予定あり

(回数・参加人数は食育に関する部分)

## 5. 指標、目標値一覧（見直し後）

食育推進目標	指標	対象	H23年 (2011)	H24年 (2012)	H25年 (2013)	H26年 (2014)	H27年 (2015)	H28年 (2016)	中間 評価	目標値 H34 (2022)	出典	
食事の重要性を理解し、食を楽しむ	朝食又は夕食を家族と一緒に食べる「共食」の回数の増加(朝・夕の合計)	20歳以上	9.8回/週					9.8回/週		10.8回/週	(1)	
食を大切にし、感謝の気持ちを深める	食育に関心のある人の増加	20歳以上	57.7%					54.8%	×	90%	(1)	
	食事を残さないように食べたり、無駄なく調理したりしている人の増加	20歳以上	75.2%					72.7%	×	85%	(1)	
食と健康に関心を持ち、健康の保持増進を図る	朝食を毎日食べる人の増加	3歳児	92.1%	91.3%	92.8%	93.6%	93.6%	91.6%		100%	(3)	
		5歳児				94.9%		94.8%		100%	(6)	
		小学生	87.6%	85.3%	80.5%	81.3%	82.0%	80.1%	×	93%	(4)	
		中学生	84.1%	83.8%	79.6%	76.5%	76.3%	72.4%	×	85%	(4)	
		高校生	76.8%					86.9%		85%	(2)	
		20・30歳代男性	50.7%					52.5%		85%	(1)	
		20歳代女性	57.6%					49.1%	×	85%	(1)	
	年代変更	20・30歳代女性	64.5%					68.0%		85%	(1)	
	野菜を毎食食べる人の増加	3歳児	23.0%	24.3%				18.8%	19.7%	×	70%	(3)
		小学生	29.3%						24.0%	×	70%	(2)
		中学生	25.0%						28.3%		55%	(2)
		高校生	30.3%						36.2%		50%	(2)
		20歳以上	29.8%						29.6%		50%	(1)
	主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数の増加(朝・昼・夕の合計)	20歳以上	14.5回/週					13.7回/週	×	15.5回/週	(1)	
	肥満者、やせの者の減少	小学生の肥満	7.0%	7.8%	7.3%	7.2%	7.6%	8.1%	×	6.5%	(5)	
中学生の肥満		9.2%	8.3%	6.6%	7.8%	6.8%	8.7%		8.5%	(5)		
20～60歳代男性の肥満		23.0%					26.7%	×	15%	(1)		
40～60歳代女性の肥満		13.3%					12.4%		10%	(1)		
20歳代女性のやせ		23.7%					34.0%	×	15%	(1)		
指標変更	メタボリックシンドロームの予防や改善のための適切な食事、運動等を継続的に実践している人の増加	20歳以上	25.5%					25.3%		30%	(1)	
	生活習慣病の予防や改善のために、普段から食生活に気をつけて実践している人の増加(適正体重の維持や減塩)	20歳以上						59.3%		65%	(1)	
食を選択する能力を身につける	栄養成分表示を参考にする人の増加	20歳以上	46.7%					44.9%	×	50%	(1)	
食を通じてマナーや社会性を身につける	家庭で食事のあいさつ(いただきます、ごちそうさま)をしている子どもの増加	5歳児				86.5%		目標数値設定 85.4%	増加	90%	(6)	
地域の産物、食文化を理解し尊重する	行事食を取り入れている人の増加	20歳以上	82.1%					76.6%	×	90%	(1)	
	給食等で行事食を取り入れている回数の増加	保育所・認定こども園			13.2回/年			目標数値設定 13.9回/年	増加	14回/年	(7)	
	地域の産物や旬の食材を使用する人の増加	20歳以上	82.4%					82.2%		95%	(1)	
	学校給食に地場産物を使用する割合の増加 <small>使用割合＝岡山県産品目数/全使用品目数×100</small>	6月・11月	41.3%	44.9%	39.5%	46.1%	50.3%	51.6%		47%	(5)	

- (1) 健康基礎調査アンケート(平成23年・平成28年)  
(2) 健康づくりアンケート(平成23年・平成28年)  
(3) 3歳児健診時食生活アンケート(平成23年度・平成28年度)  
(4) 児童生徒の食生活、日常生活習慣等の調査(津山市教育委員会、平成23年・平成28年)  
(5) 津山市教育委員会調査(平成23年度・平成28年度)  
(6) 幼児の食生活アンケート(平成26年・平成28年)  
(7) 行事食に関するアンケート(平成25年度・平成28年度)

目標達成  
策定時より目標に近づいた  
変化なし  
(策定時より概ね±1%、  
0.1回/週又は0.1回/年未満)  
× 策定時より目標から遠ざかった

## 6 . 関係団体等の今後の目指す姿と取り組みの方向性

計画の最終年である平成 34 ( 2022 ) 年度に向けて、関係者がさらに連携、協力を密にして取り組んでいくため、関係機関・団体、行政の目指す姿や取り組みの方向性を示します。

関係機関・団体・関係課名	目指す姿	取り組みの方向性
美作大学	本学学生、卒業生や大学関係者による食育を受けた子どもたちが、食事の自己管理ができる若者となって地域を支える	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 栄養教諭資格者の養成を促進</li> <li>・ 食育活動のサポートができる体制を充実させる</li> </ul>
津山市医師会	家族との楽しい食生活が子供たちの心身の健全な発育に必要である	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中間評価では、「小学生の肥満の減少」「20 歳代女性のやせの減少」の両指標が著しく悪化</li> <li>・ 低出生体重児出生数は 10.3% (H27 年度) であり、全国平均・岡山県平均を上回っている</li> <li>・ 低出生体重児は、小児期の肥満、さらには生活習慣病の誘因となるとされており、母体の低栄養が低出生体重児の原因の一つである</li> <li>・ 「20 歳代女性のやせの減少」が出生体重の増加、「小学生の肥満の減少」、ひいては生活習慣病の予防となるため、「小学生の肥満の減少」「20 歳代女性のやせの減少」に特に取り組みたい</li> </ul>
津山歯科医師会	噛むことの大切さを認識し、健康なお口で健やかに過ごす	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康な食生活を送るために、口腔機能(咀嚼、嚥下、発音)を維持、増進することが大切なことを啓発する</li> </ul>
津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会	地域の人々が健康で心豊かな生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 望ましい生活習慣・食習慣を定着させるため、継続して正しい知識の普及、啓発を図り、実践を促す活動を実施する</li> </ul>
NPO 法人津山市消費生活モニター連絡会	一般市民を対象に、健全な食生活を送ることができる“人づくりのための食育”を定期的に行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 刻々と変化していく「食育」「食の安全」の情報を収集して、子どもたちの健全な成長のために、また、大人の健康な生活のために食に関する情報を提供していく</li> </ul>
公益社団法人岡山県栄養士会津山支部	「たのしい栄養」を推奨し、たのしく食べる環を広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 講習会、相談事業を継続し、簡単で栄養面も優秀なレシピと栄養ポイントを紹介する</li> <li>・ 行政等他団体との連携強化</li> </ul>
津山市 PTA 連合会	各家庭が規則正しい食生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生活リズムの向上を図る</li> <li>・ 早寝、早起き、朝ごはんの大切さを啓発する</li> </ul>
津山市保育協議会	乳幼児一人一人が生活リズムの整った生活を送る 早寝・早起き・朝ごはんが実践でき、生活リズムの整った生き生きとした子どもを目指す	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 一人一人の食生活環境が整うように生活リズムの改善計画を作成し、実行する</li> <li>・ 講演会を実施する</li> <li>・ 他施設の見学、意見交換を行う</li> </ul>
津山市公立・私立幼稚園	幼児が食べる楽しさを知り、健康な生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 新教育要領のもと、取り組みを継続しながら、津山市の幼児の課題、幼児をとりまく環境の課題を捉え、計画を見直していく</li> </ul>
津山市こども課	乳幼児が食べる楽しさを知り、健康な生活を送る	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保護者や地域の多様な関係者との連携や協働体制を強化し、食育環境(栽培、調理等)の整備を図るとともに、食育に関する保護者の参画意識の向上に取り組んでいく</li> </ul>
津山市小・中学校	児童・生徒が健康で心豊かに成長する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 野菜の栽培、調理、試食等の体験を通じて食材の旬を知り、おいしく食べようとする</li> <li>・ 命をいただくことに感謝し、残さず食べようとする(残菜を減らす)</li> <li>・ 系統的な食育指導を積み重ねていく</li> </ul>



津山市教育委員会学校教育課	児童・生徒が望ましい生活リズムに基づき、正しい食習慣を身につけ、豊かな食生活を実践する	・H25年度～H29年度の取り組みを引き継ぎながら、学校給食を生きた教材として活用しつつ、学校の教育活動全体で食に関する指導の充実に努める
津山市教育委員会保健給食課	児童・生徒が豊かな心と健やかな体、確かな学力を身につけ、たくましく成長する	・朝食摂取、野菜摂取、給食を残さず食べることについて普及、啓発推進 ・安全で安心な食材を選択する能力、自分で調理する力を身につけるための普及、啓発推進
津山食品衛生協会	食の安全・安心の確保と健康増進	・若年層を中心に、正しい手洗い方法を身につけてもらい、手洗いを習慣づけてもらう ・食中毒予防について正しく知ってもらい、食生活をより安全に豊かにしていく
津山農業協同組合	米を主食に魚介類、野菜、豆類、特に地域の特産物などを副食としたバランスの良い食生活による健康的な生活 地域独自の伝統的な食文化を継承し、地域と家族が幸福になる生活	・地元産農畜産物の需要拡大 栄養バランスと、特に朝食を重視した食生活の推進による健康的な生活と地元産農畜産物の需要拡大の実現
おかやま酪農業協同組合	牛乳・乳製品の摂取により日本中が元気になる	・牛乳・乳製品の摂取増加への取り組み イベント等を通じて、牛乳・乳製品の利用方法を伝え、飲用以外の摂取を働きかける 関係機関とも協力し、牛乳・乳製品の良さを理解してもらう
津山市農村生活交流グループ	地産地消活動を通じた住み良い地域社会の実現	・地域農産物活用商品の開発・改良及び普及 ・異世代交流による地域農産物加工技術、伝統食、郷土料理等の伝承
津山市みらい産業課	地産地消活動を通じた住み良い地域社会の実現	・地域農畜産物活用商品の開発・改良及び普及支援 ・市内3か所の農産物直売所の支援 ・協働による地産地消啓発活動の実施 ・学校給食における地産地消の推進
美作広域農業普及指導センター	地域力を生かした6次産業化、農商工連携の推進	・女性や高齢者等多様な担い手の知恵や経験を生かし、地域資源を活用した「6次産業化」への取り組みや、学校給食への食材供給、食農体験交流などの支援 ・地域農業と商工業等の「農商工連携」の強化や、農業者と消費者との相互理解促進、地産地消運動の推進など、地域農業の活性化支援
津山市農業振興課	市民の農業への関心が高まり、地域農業が振興する	・農業体験や地場産農産物の広報を充実させ、農業と食の関わりについて理解を深めるように働きかける
岡山県美作保健所	食を通じた健康な人づくり・地域づくり～実践の輪を広げよう～ ・人と人をつなぐ ・健康な体をつくる ・豊かな心を育む	・「岡山県食の安全・食育推進計画」に基づき、食を通して健康に人を育むことができるよう地域食育活動を推進する ・食生活の課題の要因を探り、効果的な活動となるようターゲット層を絞って、各市町や学校・関係団体と連携して、「健康的な食生活を実践出来る人」を育てる活動を行う ・外食・中食への依存度が高くなるなかで、栄養士会・飲食店等と連携して「健康な食事」を提供できる食の環境整備を進める
津山市環境生活課	市民が食の安全に関する知識を身につけ、実践することができる	・食の安全確保のための普及、啓発活動を推進する
津山市教育委員会生涯学習課	食の重要性や日本の食文化を学び、次の世代につなぐ	・家族のふれあいと楽しい食事の推進 ・健全な食生活の啓発と食育体験の実施
津山市健康増進課	市民が健康で心豊かな生活を送る	・食育に関わる庁内関係部署、関係機関・団体との連携体制強化 ・これまでの取り組みを継続しつつ、市民の実践につながる方法を考え、実行していく ・朝食摂取を中心とし、関連する共食、野菜摂取、主食・主菜・副菜をそろえて食べることを併せて普及啓発していく

## 7. 食育推進目標別の重点的取り組み

6つの食育推進目標別に、関係機関・団体、行政の取り組みを明確にし、目標の達成に向けて食育を推進します。

印は新規、 印は拡充

【食育推進目標】食事の重要性を理解し、食を楽しむ	
五感（視覚、嗅覚、聴覚、触覚、味覚）を使って食事をし、食べ物の美味しさを味わう力「味育」(みいく)を養う	津山歯科医師会
育児相談等、若い世代が集まる場所で、共食の意義や重要性について普及啓発する	津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会
・幼稚園等で食育活動を実施し、一緒に楽しく食べることを推奨する ・市民を対象としたイベントへの講師派遣	岡山県栄養士会津山支部
・管内栄養改善協議会、栄養士会、学校と連携して、小学生・中学生への共食推進の食育活動を行う	美作保健所
SNS等を活用し、共食の意義や重要性について普及啓発する 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に配慮してもらえるよう、企業等に働きかける	健康増進課

【食育推進目標】食を大切にし、感謝の気持ちを深める	
・栄養教諭資格者の養成を促進（資格取得の推奨）	美作大学
・食品ロス削減について支部研修会等で学習し、個人の取り組みを家族、地域へと一口運動で広げていく	津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会
・「城西まちづくり協議会」との協働で、食の安全や地産地消の大切さ、調味料の選び方などを消費者に対して啓発する	NPO 法人津山市消費生活モニター連絡会
・朝食づくり講座を実施し、朝食を摂ることの大切さについて話を聞く ・つやま市P連新聞に、朝食づくり講座の内容と健康的な食生活を送ることの大切さについての記事を掲載する ・会議等で栄養士に食育に関する話をしてもらい、啓発チラシを配布する 食育研修会等に積極的に参加する	津山市 PTA 連合会
・離乳食、アレルギー除去食についての専門的な研修を各機関との連携を図りながら実施し、個々の食生活環境が整うよう保護者との共有を図る ・保育協議会担当者会にて食育の計画の見直し及び再確認、意見交換を図り、園児や保護者に繋げる	保育協議会
・幼児の食生活アンケート（5歳児対象）に取り組み、食育に対する意識の向上を図る	保育協議会・幼稚園・健康増進課
・野菜栽培・収穫・買い物・調理・食事体験実施 ・食育教材（絵本や図鑑等）での学び ・保護者や栄養士、地域と取り組む食育活動	幼稚園
・乳幼児期の食生活が将来の健康的な食習慣の基礎になることを、各園職員に継続的に発信し、園児・保護者への実践と啓発につながるよう推進していく ・離乳食やアレルギー除去食について適切な対応を行うため、計画的に研修を行っていく ・クッキングの目的や実施効果について各園職員・児童クラブ担当者に更に啓発を行い、実績増加を図っていく 関係機関（市栄養士など）との連携により、子育て支援センターにおいて「食育講座」等を実施し保護者の啓発を図っていく	こども課
・給食指導、農業体験や地域の生産者との交流を通して、積極的に食を考える機会を提供しながら、学校教育活動全体を通じた食育を推進していく。	学校教育課
食品営業者だけでなく、一般消費者にも食中毒予防や食の安全について正しい情報を発信し啓発を行う 関係団体（津山飲食業組合）と連携して、食品ロスの削減に取り組んでいく	津山食品衛生協会

<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元農畜産物を使った料理教室、食に関する講演、学童農園、出前授業、各種イベント等で食農教育を実施し、食の大切さを学んでもらう</li> <li>・ごはん・お米にまつわる作文・図画コンクールの作品募集について、小・中学校へ声かけ、資料提供</li> <li>・子ども向け雑誌（ちやくりん）を小学校へ配布</li> </ul>	津山農業協同組合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中学生対象の「牛乳大好き！絵画コンクール」の募集を継続し、酪農や牛乳に興味関心をもってもらう</li> <li>・高校生以上対象の「牛乳・乳製品利用コンクール」の募集を継続し、飲用だけでなく料理へ利用してもらう</li> <li>・給食の牛乳の飲み残しを減らすため、希望する中学校には骨密度測定や食育教材を実施</li> </ul>	おかやま酪農業協同組合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域農産物を活用した商品開発・改良と直売所等での販売</li> <li>・地域農産物やその加工品を活用した料理教室の実施</li> <li>・味噌等伝統食の加工技術伝承</li> </ul>	津山市農村生活交流グループ協議会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山市農商工連携推進団体（つやまFネット）を中心とした地域農畜産物を活用した商品の開発・改良及び普及活動の支援</li> <li>・地域農畜産物を取り扱う市内3か所の直売所（津山市地産地消センターサンヒルズ・勝北マルシェほほえみ彩菜・道の駅久米の里）の活動支援</li> <li>市内高校、大学等との協働による地域農畜産物活用レシピコンテスト、普及イベント等地産地消啓発活動の実施</li> </ul>	みらい産業課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・津山地方農業青年クラブ協議会主催の食農体験交流を支援する</li> <li>・若手農業女性の会や生活交流グループ等各種団体の食育・地産地消活動を支援する</li> </ul>	美作広域農業普及指導センター
<ul style="list-style-type: none"> <li>・園児・小学生対象の各種農業体験を通して、周りの大人にも食べ物の貴重さを伝える</li> </ul>	農業振興課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・消費者庁や岡山県からの情報をホームページに掲載し、市民に周知を図る</li> <li>・市役所・図書館等でパネル展を開催し、市民へ周知を図る</li> <li>・消費生活講座等の中で、パンフレット等を配布し、市民への啓発を図る</li> </ul>	環境生活課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館講座、つやま子ども未来塾などで、食育を啓発する</li> </ul>	生涯学習課
<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭での食品ロス削減のための具体的な方法を普及啓発する</li> <li>庁内関係部署、関係機関・団体等と連携し、宴会等での食べ残しを減らすよう啓発する</li> </ul>	健康増進課

つやまFネット：津山市内の農業者、工業者、商業者、教育機関、専門機関、行政等が津山市の農商工連携を推進するため、Food(食料)、Farmer(農業者)、Fresh(新鮮)、Flexibility(柔軟さ)、Fit(適した)の頭文字「F」にこだわった活動をする会議体。

<b>【食育推進目標】食と健康に関心を持ち、健康の保持増進を図る</b>	
戸島学校食育センターとの協働による就学前教育・大学入学時教育の実施 総合学習および基礎家庭の授業における出前授業の充実	美作大学
3歳児健診のBMI（カウプ指数）が1歳6か月児健診のBMIより増加している場合、小学生以降の肥満のリスクが高いとされている。また、3歳児健診から小学校入学までにBMIが低下すれば、小学5年生での肥満のリスクが低下したとの報告もある。3歳児健診でのBMIに留意して、小学校入学までの期間に肥満予防の指導をする。 母体の栄養状態が、子どもの生活習慣病をはじめとした成人病を発症するリスクを高めること、さらに世代を超えて影響する可能性があることを、日常の臨床や、校医活動のなかで啓蒙していく。（20歳代女性のやせの減少）	津山市医師会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・カミング30を実施し、口腔機能の発達、維持を図る （カミングサンマル：一口30回噛むことで、噛めて、味わえて、飲み込めるお口を目指す） 健康寿命の延伸のため、プレ・フレイルとしてのオーラル・フレイルを周知し対策を行う （フレイル：加齢にともなって様々な臓器機能が変化し、恒常性や予備機能力が低下して健康障害に対する脆弱性が増加した状態）</li> </ul>	津山歯科医師会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種料理教室、講習会、イベント等で、朝食摂取、野菜摂取、主食・主菜・副菜をそろえて食べること、生活習慣病予防のための食生活について啓発する</li> </ul>	津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼稚園、中学校、高校における食育教室等への講師派遣</li> <li>・栄養食生活相談事業を継続実施する 「栄養の日・栄養週間」のイベントを企画、継続する</li> </ul>	岡山県栄養士会津山支部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝食づくり講座で、簡単に栄養価の高い朝食メニューを実習し、朝食の大切さについて学ぶ</li> <li>つやま市P連新聞に、野菜を使った簡単なメニューなどの啓発記事を掲載する</li> </ul>	津山市PTA連合会

<ul style="list-style-type: none"> <li>・野菜の栽培、収穫体験を通して喜びや楽しさを知らせ、収穫した野菜を調理して食するおいしさを伝えていく</li> <li>・朝の検診時等に、朝食の大切さを繰り返し伝えていく</li> <li>・保育協議会調理担当者会と連携し、朝食の簡単レシピを作成し配布する</li> <li>・親子クッキングや料理教室を通じて、朝食の大切さを園児や保護者に周知する</li> </ul>	保育協議会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校・中学校とともに「早寝・早起き・朝ご飯」の取組を継続し、3食必ず食べるように指導、啓発していく</li> <li>・小学校での給食体験を通してバランスの良い食事やマナーについて学び、小学校に繋ぐ</li> </ul>	幼稚園
<ul style="list-style-type: none"> <li>○肥満・やせすぎの幼児の減少に向けて、園医や保健師等と協力し、保護者に指導する</li> <li>・各園や児童クラブと連携して、野菜の栽培等により取り組んでいく</li> <li>・園児や児童の指導、保護者への啓発のため、野菜の教材紹介等を行い周知していく</li> <li>・情報や課題の共有を行い、個々の健康的な食習慣の指導を継続的に図る</li> </ul>	こども課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭科授業・学級活動・給食指導等を、全体計画に沿って全校で取り組んでいく</li> <li>・基本的な生活習慣・食生活改善のために生活調べ等をする</li> <li>・栄養士・栄養教諭による指導回数を増やす</li> <li>・朝食づくりなどを学級P活動で取り組む</li> <li>・PTAと連携して家庭での調理体験を増やす</li> <li>・地域の産物、津山産野菜の資料（実物や図等）で紹介する</li> <li>・野菜を育て、おいしく食べる方法を考え、調理して食す</li> </ul>	小学校・中学校
<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童・生徒の基本的な生活習慣や食生活の改善、学習等に対する意欲の向上等を図るため、担当教職員と栄養教諭や栄養職員が連携し、家庭科、保健及び特設授業等で、効果的な指導につなげていく</li> </ul>	学校教育課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業、講座、啓発資料等で早寝早起き、朝食摂取、野菜摂取の重要性について児童・生徒や保護者に啓発する</li> <li>・授業で自分の健康を維持するために何をどう食べればよいのか自ら判断できる能力を身につけるよう働きかける</li> </ul>	保健給食課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病予防や高齢者の低栄養対策に牛乳・乳製品の摂取が良いことを呼びかける</li> <li>・牛乳のコクや旨味を利用し、おいしく減塩ができる乳和食の普及に取り組む</li> </ul>	おかやま酪農業協同組合
<ul style="list-style-type: none"> <li>・自身が栽培するため、野菜を食べる機会の多い市民農園利用者と、その家族を増加させるよう、広報活動を行う</li> </ul>	農業振興課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・管内栄養改善協議会、栄養士会、学校と連携して、小学生・中学生・高校生への朝食摂取向上の食育活動を行う</li> <li>・管内・県で作成した普及啓発媒体を活用して減塩、野菜摂取向上等の食育活動を市町・関係団体と連携して行い、生活習慣病の発症予防等若い世代からの健康づくりに努める</li> </ul>	美作保健所
<ul style="list-style-type: none"> <li>・早寝早起き朝ごはんをテーマにした子育てワークショップを小学校などで開催し、保護者への啓発を行う</li> <li>・家庭教育・子育て情報誌（啓発チラシ）に早寝早起き朝ごはんに関する記事を掲載し、関係部局と連携・協力して、子育て家庭に配布する</li> </ul>	生涯学習課
<ul style="list-style-type: none"> <li>・1歳6か月児健診、3歳児健診で肥満のリスクがある子どもへの対応を検討する</li> <li>・保育所、こども園、幼稚園等との連携を推進する</li> <li>・高校生へ、適正体重の維持や適正な食事量について普及啓発する</li> <li>・乳幼児健診、広報紙、市ホームページ、SNS等で朝食の大切さを繰り返し伝え、特に若い世代に向けて朝食に取り入れやすい野菜料理を紹介する</li> <li>・特定保健指導等で、適正体重に近づけるよう個別支援をする</li> <li>・汁物の塩分測定、塩分チェック等を実施し、個人に合った減塩の取り組みを支援する</li> </ul>	健康増進課

### 【食育推進目標】食を選択する能力を身につける

<ul style="list-style-type: none"> <li>・栄養成分表示について支部研修会等で学習し、個人の取り組みを家族、地域へと一口運動で広げていく</li> </ul>	津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「栄養成分表示の店登録事業」への対応をする</li> <li>・「栄養の日・栄養週間」のイベント時に展示等で啓発する</li> </ul>	岡山県栄養士会津山支部
<ul style="list-style-type: none"> <li>・生活習慣病予防や高齢者の低栄養対策に牛乳乳製品摂取が良いことを呼びかける</li> </ul>	おかやま酪農業協同組合

・栄養士会津山支部と連携して、住民が自分の健康状態に合わせた食事メニューを選択できるよう「栄養成分表示の店登録事業」を進める	美作保健所
・消費者庁や岡山県からの情報をホームページに掲載し、市民に周知を図る ・市役所・図書館等でパネル展を開催し、市民へ周知を図る	環境生活課
・栄養成分表示の見方について普及し、食品の選択に役立ててもらおうよう啓発する	健康増進課

### 【食育推進目標】食を通じてマナーや社会性を身につける

戸島学校食育センターとの協働による就学前教育・大学入学時教育の実施	美作大学
育児相談等、若い世代が集まる場所で、「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味(語源)を周知する	津山市栄養改善協議会・津山市愛育委員連合会
・「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつの大切さを日頃から知らせ、食事に適したあいさつの習慣化を図る	保育協議会
・「いただきます」「ごちそうさま」の定着のため、あいさつの大切さを保護者に啓発する ・食事の前の手洗いなど、衛生習慣を身につける	幼稚園
・「いただきます」「ごちそうさま」の意味や子どもの心の育ちにとって必要な習慣であることを、機会を捉えて引き続き発信し、園の職員や保護者と連携を図っていく	こども課
乳幼児健診、広報紙、市ホームページ、SNS等で「いただきます」「ごちそうさま」の言葉の意味(語源)を周知する	健康増進課

### 【食育推進目標】地域の産物、食文化を理解し尊重する

・「城西まちづくり協議会」との協働で、食の安全や地産地消の大切さなどを消費者に対して啓発する	NPO 法人津山市消費生活モニター連絡会
・行事食や地域の産物、旬の食材を把握し、給食の献立を実施する 行事食及び地域の産物や旬の食材を取り入れたレシピを作成、配布し、食文化の情報を伝える	保育協議会
・行事食に関心が持てるよう、体験や啓発活動を実施 ・旬の野菜・津山の野菜を幼児・保護者に知らせる	幼稚園
・給食指導、農業体験や地域の生産者との交流を通して、積極的に食を考える機会を提供しながら、学校教育活動全体を通じた食育を推進していく	学校教育課
・地元農畜産物を使った料理教室、食に関する講演、出前授業等を実施し、地元食材の良さ、日本食の良さを再認識してもらい、各地域・家庭へ伝えてもらう	津山農業協同組合
・地域農産物を活用した商品開発・改良と直売所等での販売 ・地域農産物やその加工品を活用した料理教室の実施 ・味噌等伝統食の加工技術伝承	津山市農村生活交流グループ協議会
・津山市農商工連携推進団体(つやまFネット)を中心とした地域農畜産物を活用した商品の開発・改良及び普及活動の支援 ・地域農畜産物を取り扱う市内3か所の直売所(津山市地産地消センターサンヒルズ・勝北マルシェほほえみ彩菜・道の駅久米の里)の活動支援 市内高校、大学等との協働による地域農畜産物活用レシピコンテスト、普及イベント等地産地消啓発活動の実施 学校給食向け地域農畜産物活用加工商品等の開発・改良及び提供支援	みらい産業課
・生活交流グループ等各種団体の伝承料理活動を支援する ・地域の産物や旬の食材を活用した、6次産業化への取り組みを重点的に支援する ・地域資源を活用した新たな地域特産品の開発を支援する ・実需者と農業者との交流、意見交換を促進する ・JAや生産部会と連携して、学校給食に使用する地域産物の生産指導を行う ・地域資源を使用した6次産業化商品の開発を支援し、給食への供給を促進する	美作広域農業普及指導センター
・小麦やショウガなどの戦略作物や地域振興作物の生産振興及び生産性向上のための支援を行う ・津山産小麦、つやま和牛及び精肉、津山産ブドウの生産振興と消費拡大を目的とした広報・周知活動を行う ・関係部署・機関と連携し、イベント等で地域の農産物について紹介する	農業振興課
・公民館講座、つやま子ども未来塾などで、津山産や旬の食材を使用した調理体験などを実施する	生涯学習課
・行事食、地域の産物や旬の食材を取り入れた調理実習、レシピの紹介を実施する 庁内関係部署、関係機関・団体に、行事食、地域の産物や旬の食材についての情報提供をしてもらい、活用する	健康増進課

## 8 . まとめ

第2次津山市食育推進計画策定から5年間、関係機関・団体、行政などにより、多様な取り組みを主体的に推進してきました。また、教育現場や関係機関・団体が協働で取り組んだ食育教室や幅広い世代を巻き込んだイベントの開催なども増え、連携は確実に進んできています。

数値目標に対する達成状況は、「朝食を毎日食べる人（高校生）」、「給食等で行事食を取り入れている回数（保育所・認定こども園）」、「学校給食に地場産物を使用する割合」で、平成34（2022）年度の目標値を上回る結果となりました。

しかし、「朝食を毎日食べる人（小学生・中学生・20歳代女性）」、「野菜を毎食食べる人（3歳児・小学生）」、「主食・主菜・副菜をそろえて食べる回数（20歳以上）」、「小学生及び20～60歳代男性の肥満、20歳代女性のやせ」、「栄養成分表示を参考にする人」については策定時より悪化しています。国の調査（国民健康・栄養調査）でも、エネルギーや食塩等の過剰摂取や野菜の摂取不足等による栄養の偏り、朝食の欠食に代表されるような食習慣の乱れが見られます。これらに起因する肥満や生活習慣病は引き続き課題である一方で、若い女性のやせ、高齢者の低栄養等の問題も指摘されています。

その他の指標では、「食育に関心のある人」、「食事を残さないように食べたり、無駄なく調理したりしている人」、「行事食を取り入れている人」が策定時より悪化していました。食品ロス（食べられるのに廃棄される食品）の削減、伝統的な食文化の継承のためにも、より多くの市民に食育に関心を持ってもらうことが欠かせません。

中間評価の結果、各年代で様々な課題がありますが、20歳代男女と30歳代男性では、健全な食生活の実践だけでなく、食に関する意識の面でも課題があることがわかりました。これから親になる世代や子育て中の世代は、自らも食育を実践し、食に関する知識や取り組みを子どもたちに伝えていくという大切な役割があります。これらの若い世代への関わりを増やすためには、情報発信の方法を工夫するとともに、教育現場での子どもを通じた保護者への食育や、親になる少し前の年代に対しては、高校・大学と連携した取り組みなどをさらに進めていく必要があります。

近年、食を取り巻く社会環境が大きく変化する中で、食に関する価値観やライフスタイルの多様化が進んできています。世帯構造の変化や様々な生活状況により、家庭や個人の努力のみでは健全な食生活を実践することが困難な状況も見受けられます。

これらの状況に対し、関係機関・団体、行政などがその特性や能力を生かしつつ、第2次津山市食育推進計画の最終年である平成34（2022）年度に向けて、さらに連携、協力を密にして市民一人ひとりの食育の実践を支援し、多様な食育の機会を提供するよう努めてまいります。

最後になりましたが、第2次津山市食育推進計画の中間評価報告書作成にあたりまして、ご尽力いただきました津山市食育推進会議委員や関係機関・団体の皆様、アンケートにご協力いただきました市民の皆様に厚く御礼申し上げます。

## 9 . 参考資料

### 津山市食育推進会議委員名簿

役 職	氏 名	所属団体等
会 長	橋本 賢	美作大学短期大学部 准教授
副会長	松本 静江	津山市愛育委員連合会 会長 津山市栄養改善協議会 会長
委 員	赤松 由美子	津山市立幼稚園長会 会長
	浅野 晴夫	美作広域農業普及指導センター 所長
	井上 博子	岡山県美作保健所 保健課長
	今村 正照	津山食品衛生協会 副会長
	岡田 成子	津山市農村生活交流グループ協議会 会長
	片山 薫	津山農業協同組合 営農生活部 営農販売企画課 課長代理
	直本 眞理子	一般公募
	下山 早織	津山市小中学校長会
	砂田 眞紀	岡山県栄養士会津山支部 副支部長
	田淵 典子	津山市消費生活モニター連絡会 理事
	原田 恵子	津山市保育協議会 研修部長
	春木 洋	津山歯科医師会 専務理事
	松尾 直光	津山市医師会
	松下 千春	おかやま酪農業協同組合 事業本部 生乳課 調査役
森安 伶菜	一般公募	
渡邊 祐貴子	津山市PTA連合会 理事	

委嘱期間 平成29年4月1日から平成31年3月31日

委員以下50音順 敬称略

## 第2次津山市食育推進計画 中間評価の経過

### 津山市食育推進会議

	開催日時	出席人数	内容
第1回	平成29年 11月21日(火)	委員 14名 事務局 15名	委嘱状交付 会長・副会長選出 議事 (1)食育推進のこれまでの主な経緯について (2)「第2次津山市食育推進計画」中間評価スケジュールについて (3)「第2次津山市食育推進計画」指標の評価について (4)「食育推進の取り組み 5年間の評価」について (5)「第3次食育推進基本計画」(国)について (6)「第2次津山市食育推進計画」指標、目標値の見直しについて (7)意見交換
第2回	平成30年 2月20日(火)	委員 16名 事務局 14名	議事 (1)「第2次津山市食育推進計画」中間評価報告書(案)について (2)その他

### 津山市食育推進本部会議

	開催日時	出席人数	内容
第1回	平成30年 1月19日(金)	本部員 13名 事務局 7名	議事 (1)「第2次津山市食育推進計画」中間評価報告書(案)について (2)その他

### 津山市食育推進チーム会議

	開催日時	出席人数	内容
第1回	平成29年 10月2日(月)	チーム員 11名 事務局 4名	議事 (1)食育推進のこれまでの主な経緯について (2)「第2次津山市食育推進計画」中間評価スケジュールについて (3)「第2次津山市食育推進計画」指標の評価について (4)「食育推進の取り組み 5年間の評価」について (5)「第3次食育推進基本計画」(国)について (6)「第2次津山市食育推進計画」指標、目標値の見直しについて (7)その他
第2回	平成30年 1月11日(木)	チーム員 9名 事務局 6名	議事 (1)「第2次津山市食育推進計画」中間評価報告書(案)について (2)その他

### 津山市食育推進本部事務局会議

	開催日時	出席人数	内容
第1回	平成29年 8月3日(木)	事務局員 13名	議事 (1)食育推進のこれまでの主な経緯について (2)平成25年度～29年度 食育推進状況について (3)「第2次津山市食育推進計画」指標の評価について (4)「食育推進の取り組み 5年間の評価」について (5)「第3次食育推進基本計画」(国)について (6)「第2次津山市食育推進計画」指標、目標値の見直しについて (7)その他
第2回	平成29年 12月13日(水) ～15日(金)	事務局員 9名	関係課事務局員と個別の話し合い(各課30分程度) (1)目標達成に向けた今後の重点的取り組みについて (2)その他



## 第2次津山市食育推進計画

### 中間評価報告書

平成30年3月

津山市こども保健部健康増進課

〒708-8501 岡山県津山市山北 520 番地

TEL 0868 (32) 2069

FAX 0868 (32) 2161

市ホームページ <https://www.city.tsuyama.lg.jp/>